Agilent ChemStation コンピュータのコンフィグレーションとメンテナンス

Agilent ChemStation リビジョン B.04.02

Agilent Technologies

注意

© Agilent Technologies, Inc. 2004, 2005-2009

本マニュアルは米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc.の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形式や方法（電子媒体による保存や読み出し、外国語への翻訳なども含む）においても、禁止されています。

マニュアル番号

G2170-96134

エディション

07/09

Printed in Germany

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

Microsoft は、Microsoft Corporation の米国の登録商標です。

Windows、Windows Vista、SQL Server および Visual Studio は米国またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Oracle ® は、Oracle Corporation の米国の登録商標です。

ソフトウェアリビジョン

本ガイドは、Agilent ChemStation ソフトウェアの B.04.xx 版に対して有効です。この xx はソフトウェアのマイ

保証

このマニュアルに含まれる内容は「現状のまま」提供されるもので、将来のエディションにおいて予告なく変更されることがあります。また、Agilent は、適用される法律によって最大限に許可される範囲において、このマニュアルおよびそれに含まれる情報に関して、商品性および特定の目的に対する適合性の暗黙の保証を含みそれに限定されないすべての保証を明示的か暗黙的かを問わず一切いたしません。Agilent は、このマニュアルまたはそれに含まれる情報の所有、使用、または実行に付随する過誤、または偶然的または間接的な損害に対する責任を一切負わないものとします。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がこの文書の条項と矛盾する場合は、別の契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

このマニュアルで説明されているハードウェアおよびソフトウェアはライセンスに基づいて提供され、そのライセンスの条項に従って使用またはコピーできます。

安全に関する注意

注 意

注意は、危険を表します。これは、正しく実行しなかったり、指示を順守しないと、製品の損害または重要なデータの損失にいたるおそれがある操作手順や行為に対する注意を喚起します。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警 告

警告は、危険を表します。これは、正しく実行しなかったり、指示を順守しないと、人身への傷害または死亡にいたるおそれがある操作手順や行為に対する注意を喚起します。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

研究目的のみ。

ナーリビジョンを表す数字であり、本マニュアルの技術的な正確さに影響を与えるものではありません。

このガイドの内容

アジレント提供の ChemStation PC バンドルシステムは、サポートされている Windows オペレーティングシステムがプリインストールされており、ChemStation のパフォーマンスが最適化されるように設定されています。Agilent 提供でない PC バンドルシステムでパフォーマンスを最適化するには、マニュアルでのコンフィグレーション変更をいくつか行う必要があります。このマニュアルでは、アジレント提供でない PC バンドルシステムの設定方法を説明します。

1 Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための Windows XP SP 3 のコンフィグレーション手順

この章では、Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための、アジレント提供でない Windows XP SP 3 システムのコンフィグレーションに必要なパラメータについて説明します。またインターネットセキュリティなどの重要な設定についても説明します。

2 Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための Windows Vista SP1 のコンフィグレーション手順

この章では、Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための、アジレント提供でない Windows Vista SP1 システムのコンフィグレーションに必要なパラメータについて説明します。

3 セキュリティ設定

この章では、LC/MSD、CE/MSD、LC/MSD Trap、GC 7890A、IO Library Suite 15、Agilent Bootp サービスのすべてのセキュリティ設定を説明します。

4 その他の変更操作

これらの変更操作は、Administrator のユーザーアカウントのみで実行できます。

5 PC のファイルシステムのメンテナンス

ChemStation システムのパフォーマンスを最適化するには、不必要なファイルの削除など定期的なメンテナンスを予定に組み込むことが重要です。定期メンテナンスのスケジュールの一部として、以下の手順を行ってください。

目次

1 Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための Windows XP SP 3 のコンフィグレーション手順 7

Windows XP のインストール 8
Windows XP の設定 9

2 Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための Windows Vista SP1 のコンフィグレーション手順 25

Windows Vista のインストール 26
Windows Vista の設定 27

3 セキュリティ設定 45

LC/MSD と CE/MSD システムのセキュリティ設定の 46
LC/MSD Trap システムのセキュリティ設定 50
GC 7890A システムのセキュリティ設定 55
IO Library Suite 15 のセキュリティ設定 58
Agilent Bootp サービスを使用するシステムのセキュリティ設定 62

4 その他の変更操作 65

ChemStation のインストール 66
ChemStation をパワーユーザー/ ユーザーとして実行するためのプロファイルとグループポリシー 66

5 PC のファイルシステムのメンテナンス 67

NTFS ボリュームのスキャンと修復 68
NTFS ボリュームのデフラグ 70
ウィルスのスキャン 72
残存している一時ファイルのクリーンアップ 73
バックアップ 75

1 Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための Windows XP SP 3 のコンフィグレーション手順

Windows XP のインストール 8
Windows XP の設定 9

この章では、Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための、アジレント提供でない Windows XP SP 3 システムのコンフィグレーションに必要なパラメータについて説明します。またインターネットセキュリティなどの重要な設定についても説明します。

Windows XP のインストール

注記

適切なセキュリティパッチとホットフィックスをインストールするまで、PC をインターネットに接続しないでください。ネットワークに接続する前には、ウィルス定義ファイルと Agilent がサポートする最新のセキュリティフィックスをインストールすることを強くお勧めします。

1 リカバリ CD または Windows XP Professional の CD-ROM から、Windows XP をインストールします。Windows XP のセットアップ時に、コンピュータ名、Administrator パスワード、およびネットワーク設定を指定します。既存のドメインに参加するか、またはワークグループモードでシステムを設定してください。

2 **スタート > ファイル名を指定して実行** で **winver** と入力して、Windows のバージョンを確認します。必要に応じて、XP のサービスパック 3 をインストールします。現在のファイルをアーカイブしてシステムを再起動するオプションは、無視してください。

3 システムをウィルスから保護するため、ウィルス対策プログラムをインストールしてください。ウィルス対策プログラムを実行すると、コンピュータの動作とパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。Agilent ChemStation は、Symantecs の Norton Antivirus との実行によるテストを受けています。詳細については、「ウィルスのスキャン」72 ページ 図 を参照してください。

Windows XP の設定

ChemStation を Windows XP システム上で正しく動作させるには、このマニュアルに記載の一部の変更手順に従うことが必要です。これにより、アプリケーションのパフォーマンスが最適化されます。また、グラフィックやその他小さな影響を与える変更手順もあります。

注記

個々の設定の重要度を示すため、各項目は以下のとおりに分類されます。

必須 : この変更操作は必ず行ってください。

パフォーマンス : この変更操作は、システムのパフォーマンスを向上させます。

オプション : この変更操作の大部分は、アプリケーションのグラフィック表示に影響します。

（オプション） 1 レイアウト全般 : (**スタート** メニューを右クリック > **プロパティ**)

a **[スタート メニュー]** タブ : **クラシック スタート メニュー** を選択します。

b [スタート] メニュー > **カスタマイズ** ボタンをクリックします (10 ページ図 1 を参照)。**[スタート] メニューの詳細オプション** : 以下のオプションをオフにします。

- **頻繁に利用するメニューを優先的に表示する**

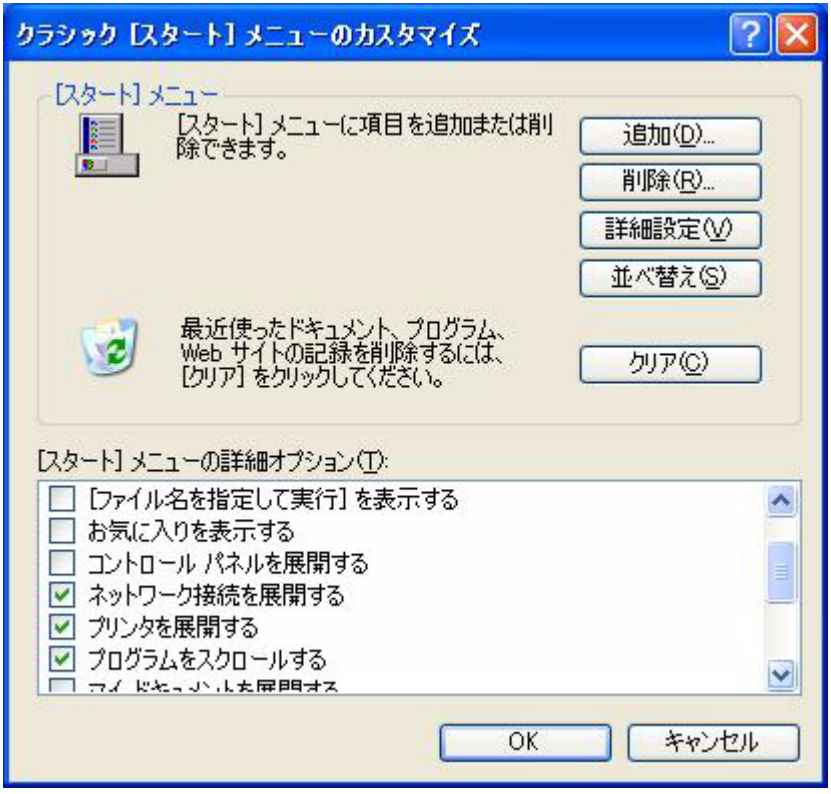


図 1 クラシック [スタート] メニューのカスタマイズ ダイアログ

c 以下のオプションをオンにします。

- **管理ツールを表示する**
- **お気に入りを表示する**
- **ログオフを表示する** (ワークグループシステムの場合で、このオプションは手順 6 以降でのみ使用できます)
- **[ファイル名を指定して実行] を表示する**
- **[スタート] メニューに項目をドラッグ / ドロップできるようにする**

- **コントロールパネルを展開する**
- **ネットワーク接続を展開する**
- **プリンタを展開する**
- **プログラムをスクロールする**
- **[スタート] メニューに小さなアイコンを表示する**

（必須） **2** フォルダオプション : ([**スタート]** > を右クリックして [> **エクスプローラ]**)

a **[表示]** を **[詳細]** に設定

b **[ツール]** > **[フォルダ オプション]** を選択

c **[全般]** タブ : [作業] で、**[従来の Windows クラシックフォルダを使う]** をクリックします。

d **[表示]** タブで以下のオプションをオフにします。

- **簡易ファイルの共有を使用する**
- **登録されている拡張子は表示しない**

e 以下のオプションをオンにします。

- **タイトルバーにファイルのパス名を表示する**

f **[すべてのフォルダに適用]** ボタンを選択することで、すべてのフォルダに以上の設定を適用します。

（必須） **3** Internet Explorer: (**[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[Internet Explorer]**) (11 ページ 図 2 を参照)

a **[ツール]** > **[Windows Update]**: 重要なセキュリティ パッチの適用。

図 2 重要なセキュリティ更新プログラムのダウンロード

（必須） **4** Microsoft に Windows XP Professional を登録します。

（必須） 5 Windows ログオンオプション: (ワークグループシステムのみ) (**[スタート]** > **[設定]** > **[コントロール パネル]** > **[ユーザーアカウント]**)

a **[ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する]** をクリックします。

b **「ようこそ画面を使用する」**をオフにします。

c **「ユーザーの簡易切り替えを使用する」**をオフにします。

（必須） 6 電源オプション: (**[スタート]** > **[設定]** > **[コントロール パネル]** > **[電源オプション]**) (13 ページ 図 3 を参照)

a **[電源設定]** タブをクリックします。

b **[電源設定]** ドロップダウンボックスから電源設定を選択します。

c ドロップダウンボックスの **[ハードディスクの電源を切る]** および **[システム スタンバイ]** を **[なし]** に設定します。

d [**休止状態**] タブを選択します。[**休止状態を有効にする**] をオフにします。

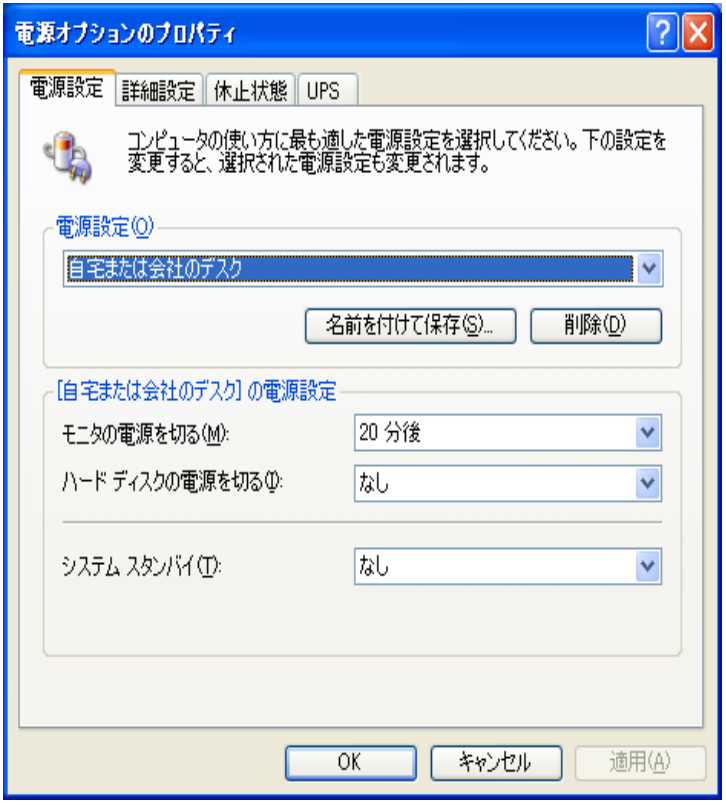


図 3 [**電源オプションのプロパティ**] ダイアログの [電源設定] タブ

（必須） 7 ローカルセキュリティポリシー: ([**スタート**] > [**プログラム**] > [**管理ツール**] > [**ローカルセキュリティポリシー**])

a [**セキュリティの設定**] ツリーの [**ローカルポリシー**] フォルダを開き、[**セキュリティオプション**] フォルダを開きます。

b 右側のパネルに表示されている次のポリシーをダブルクリックします。**ネットワークアクセス : ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル**

c 表示されたダイアログで、リストの一覧から次の項目をクリックします。
クラシック - ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する

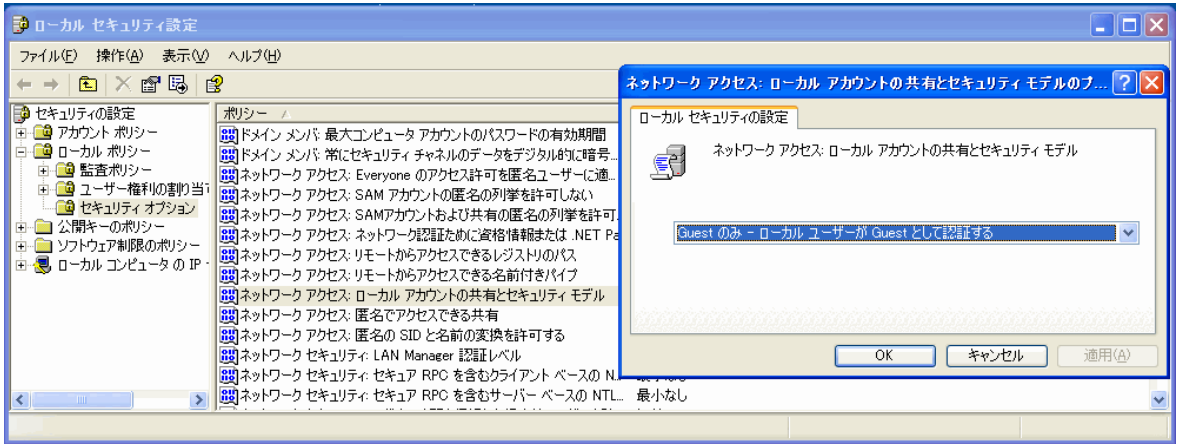


図 4 [ローカルセキュリティ設定] ダイアログ

（必須） **8** Windows Messenger の自動起動の無効化 ((**[スタート]** > **[プログラム]** > **[Windows Messenger]** > **[ツール]** > **[オプション]**):

a **[設定]** タブをクリックします (15 ページ 図 5 を参照)。

b **[全般]** セクションで、**「Windows の起動時に Windows Messenger を実行する」**をオフにします。

c **[OK]** をクリックして、システムを再起動します。

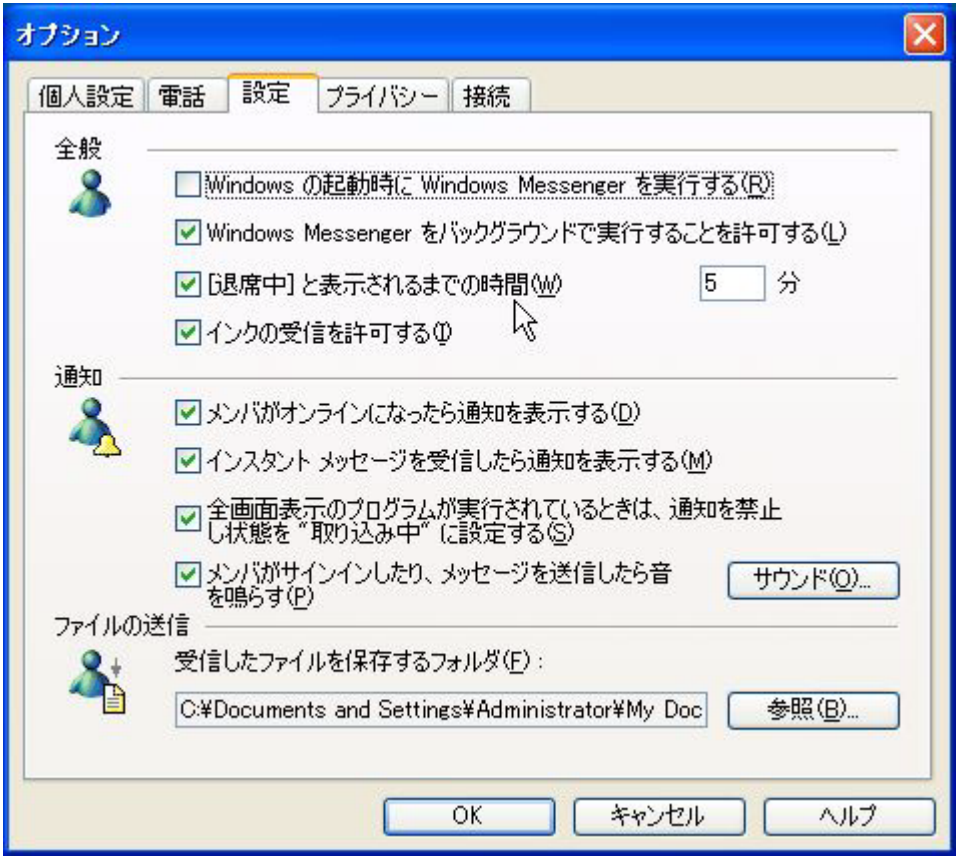


図 5 [オプション] ダイアログの [設定] タブ

（必須） 9 地域と言語のオプション: (**[スタート]** > **[設定]** > **[コントロールパネル]** > **[地域と言語のオプション]**) (16 ページ 図 6 を参照)

a [**形式**] タブで、ドロップダウンリストから [**日本語**] を設定してください。

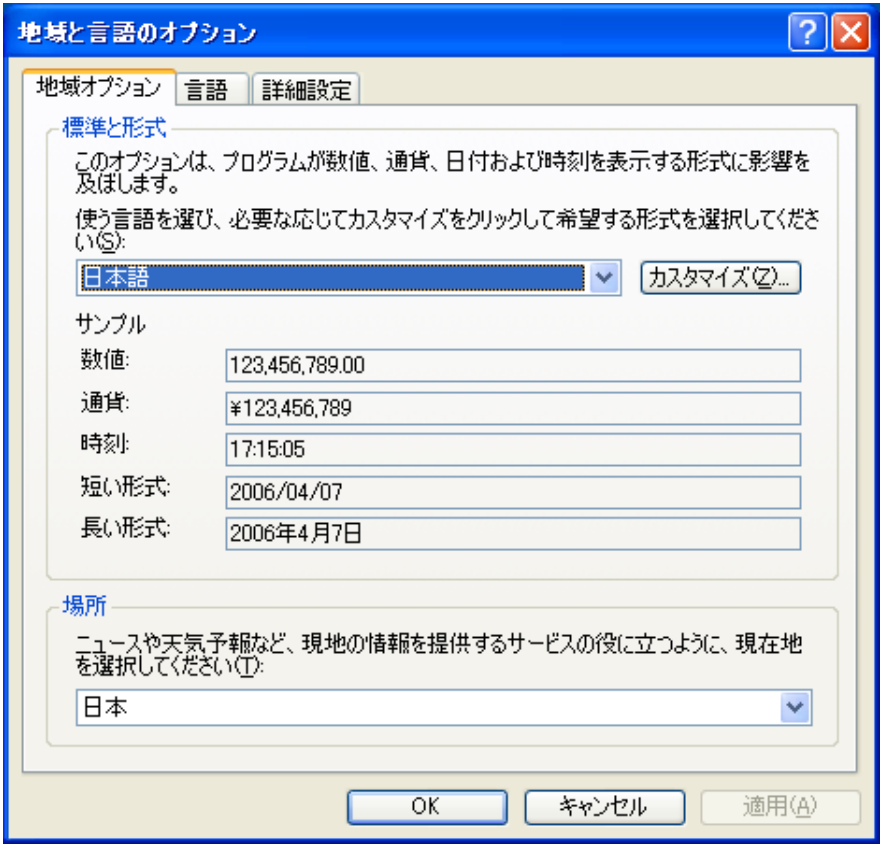


図 6 [**地域と言語のオプション**] ダイアログの [**地域オプション**] タブ

b [**日本語**] 以外の地域を選択する場合には必ず、以下の設定を行ってください。これらの設定を定義するには、[**カスタマイズ**] ボタンをクリックします (17 ページ 図 7 を参照)。

- 小数点の記号 = .(点)
- 桁区切り記号 = , (コンマ)
- 区切り記号 = , (コンマ)

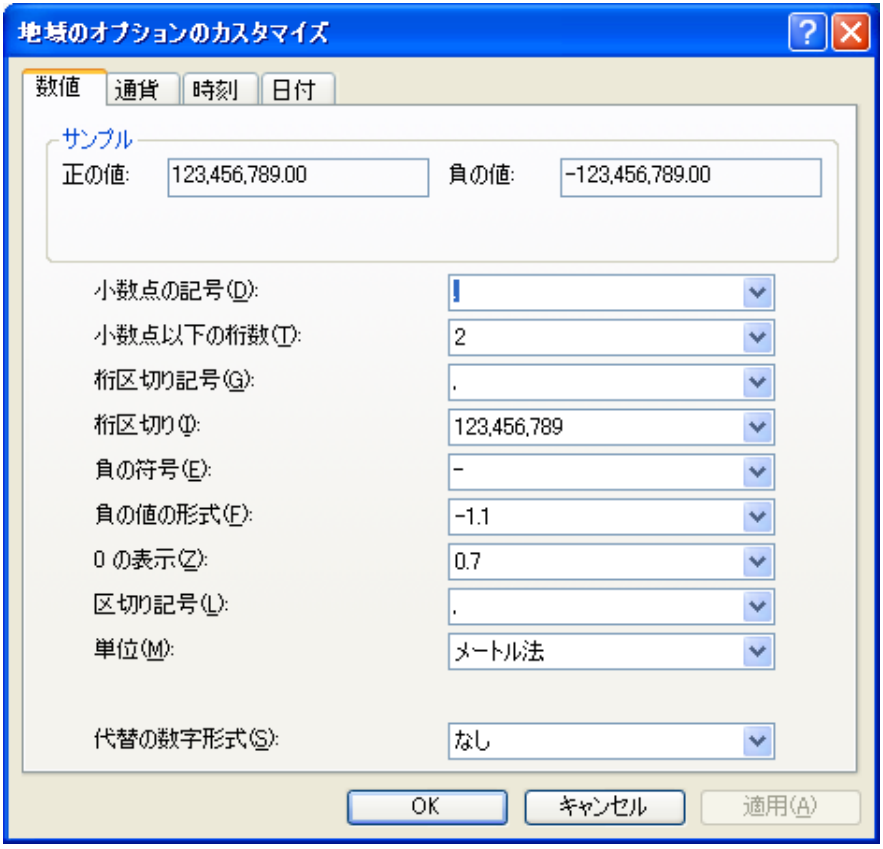


図 7 [**地域オプションのカスタマイズ**] ダイアログの [**数値**] タブ

c Unicode 対応でないプログラムの言語 : **[詳細設定]** タブで、ドロップダウンリストから **[日本語]** を選択します (18 ページ 図 8 を参照)。

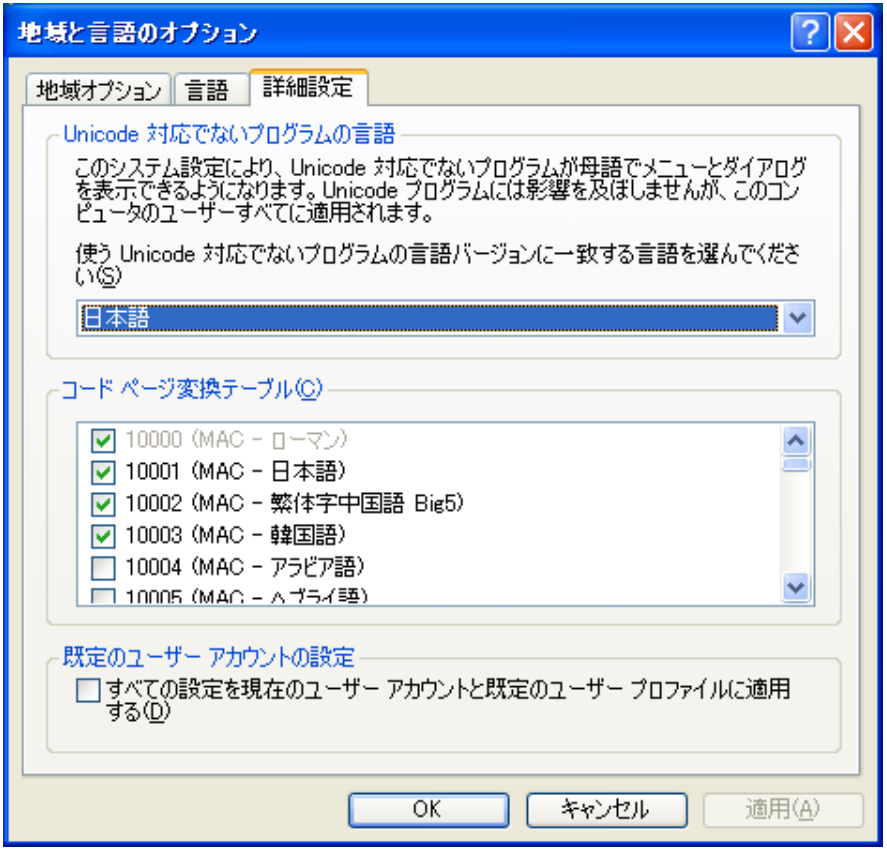


図 8 **[地域と言語のオプション]** ダイアログの **[詳細設定]** タブ

（パフォーマンス）

10 ハードディスクのプロパティ: (**[スタート] を右クリック** > **[エクスプローラ]** の **[ローカルディスク (C:)] > を右クリック [プロパティ]**)

a **[全般]** タブで、**「このディスクにインデックスを付け、ファイル検索を速くする」**をオフにします (19 ページ 図 9 を参照)。

b 変更を適用するには、**[OK]** をクリックします。

c 選択ダイアログで、**「C:\ およびサブフォルダとファイルに変更を適用する」**オプションをオンにします。

d この設定は、リムーバブルディスク以外のすべてのドライブでオフにしてください。

注記

Microsoft では、$NTUninstallKB... フォルダなど Windows のホットフィックスやパッチに関連するフォルダには、特別なアクセス権限が適用されます。これらのフォルダのアクセス権限により、インデックスサービスの新しい設定を適用した際にはエラーメッセージが表示されます。こうしたメッセージが表示されたら**「無視」**をクリックしてください。

図 9 **ローカルディスク (C:) [プロパティ] ダイアログ、[全般] タブ**

（パフォーマンス）

11 画面レイアウト : (**デスクトップ** > を右クリック > **[プロパティ]**):

a **「画面のプロパティ」**ダイアログで、以下の項目を変更してください (19 ページ 図 9 を参照)。

- **[テーマ]** タブ : **Windows XP** を **Windows Classic** に変更します。
- **[デスクトップ]** タブ : **[デスクトップのカスタマイズ]** ボタンをクリックします。
  - **[全般]** タブ : 4 つのデスクトップアイコン ([マイドキュメント]、[マイコンピュータ]、[マイネットワーク]、[Internet Explorer]) をすべてオンにします。
  - **[全般]** タブ : **「60 日ごとにデスクトップクリーンアップウィザードを実行する」**をオフにします。
- **[スクリーン セーバー]** タブ : スクリーン セーバーを **Windows XP** から **なし**に変更します。
- **[デザイン]** タブ > **[効果]** ボタン : 次の項目を除いたすべての項目をオフにします。
  - **[..... キーボードナビゲーションの下線を表示しない]**
- **[設定]** タブ : 解像度を 1280 x 1024 に、色を 32 ビットに、リフレッシュレートを 75 Hz 以上に設定します。(以下に注意してください : 一部の旧型モニターは 60 Hz のみでの動作です。)

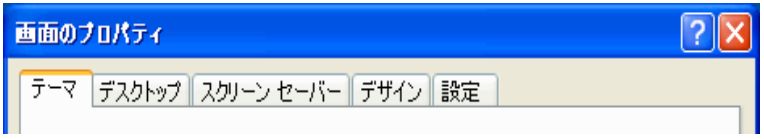


図 10 **[画面のプロパティ]** ダイアログのタブ

（パフォーマンス）

12 システムのプロパティ : **[スタート]** > **[設定]** > **[コントロールパネル]** > **[システム]**

a **[詳細設定] タブ** > **[パフォーマンス]** > **[設定]** ボタンをクリックします (21 ページ 図 11 を参照)。

- **[視覚効果]** タブ : **[視覚効果]** を **[パフォーマンスを優先する]** に設定します。
- **[詳細設定]** タブ > **[仮想メモリ]** : **[変更]** ボタンをクリックして、ページングファイルサイズを PC の物理 RAM の 2 ～ 3 倍の値に調整すると最適なパフォーマンスが得られます。

- **[データ実行防止]** タブ : **「重要な Windows プログラムおよびサービスについてのみ有効にする」**をクリックします。

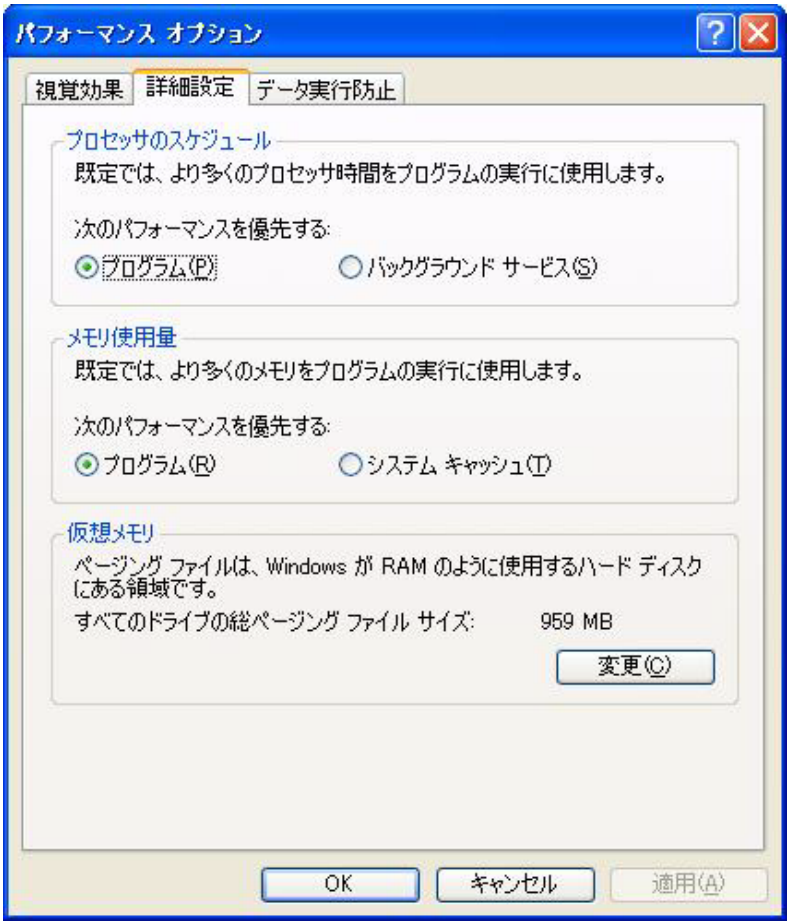


図 11 **[パフォーマンスオプション]** ダイアログの **[詳細設定]** タブ

b **[詳細設定] タブ** > **[起動と回復]** > **[設定]** ボタンをクリックします (22ページ 図 12 を参照)。

- **[起動システム]** セクション : 両方の**「... を表示する時間」**フィールドを「30」秒間から「3」秒間に変更します。

- **[システムエラー]** セクション : **「デバッグ情報の書き込み」**を**「なし」**に設定します

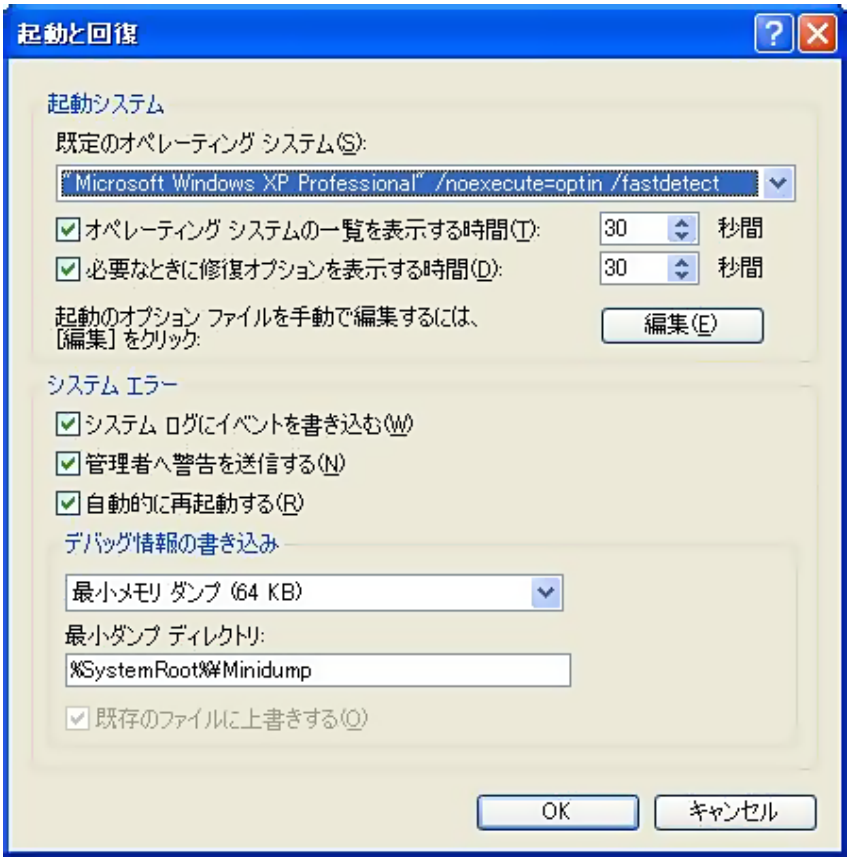


図 12 **[起動と回復]** ダイアログ

c **[詳細設定]** タブ > **[エラー報告]** ボタン : **「エラー報告を無効にする」**をクリックして**「重大なエラーが発生した場合は通知する」**をオンにします。

d **[リモート]** タブ : **「このコンピュータからリモートアシスタンスの招待を送信することを許可する」**と**「このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する」**をオフにします。

e **[システムの復元]** タブ : **「すべてのドライブでシステムの復元を無効にする」**をオンにします。

f この設定を有効にしたら、システムを再起動します。

（オプション） 13 **ごみ箱のプロパティ**（デスクトップの [ごみ箱] アイコンを右クリック）以下のオプションをオンにします (23 ページ 図 13 を参照):

a **全ドライブで同じ設定を使う**

b **ごみ箱にファイルを移動しないで、削除と同時にファイルを消す**

c **削除の確認メッセージを表示**

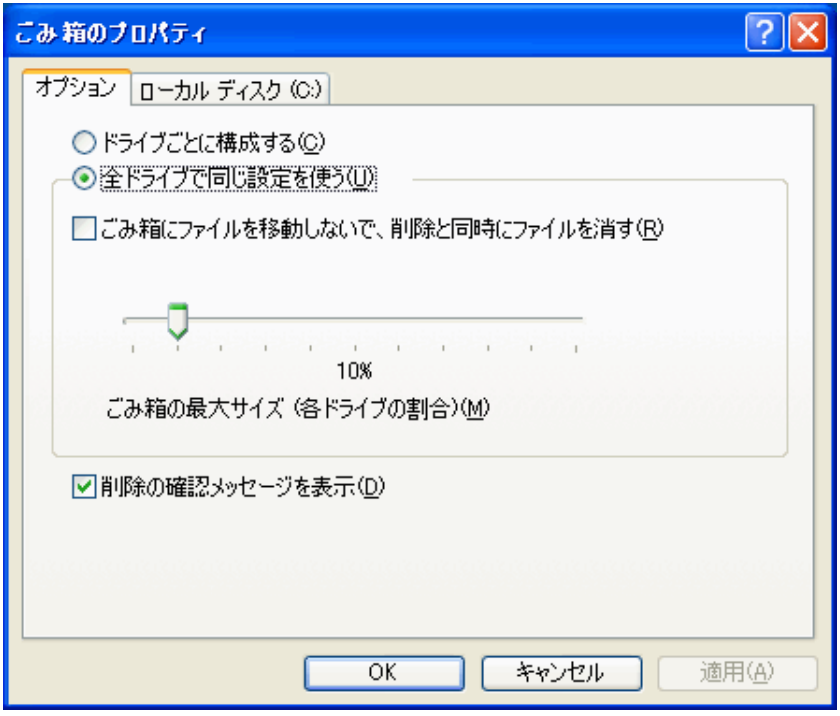


図 13 [**ごみ箱のプロパティ**] ダイアログの [**オプション**] タブ

（オプション） 14 画面レイアウト : (デスクトップを右クリック > [**アイコンの整列**]) **「等間隔に整列」**をオフにします。

1 Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための Windows XP SP 3 のコンフィグレーション手順

Windows XP の設定

2 Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための Windows Vista SP1 のコンフィグレーション手順

Windows Vista のインストール 26
Windows Vista の設定 27

この章では、Agilent ChemStation リビジョン B.04.02 以降を使用するための、アジレント提供でない Windows Vista SP1 システムのコンフィグレーションに必要なパラメータについて説明します。

Windows Vista のインストール

注記

適切なセキュリティパッチとホットフィックスをインストールするまで、PC をインターネットに接続しないでください。ネットワークに接続する前には、ウィルス定義ファイルと Agilent Technologies がサポートする最新のセキュリティフィックスをインストールすることを強くお勧めします。

1 リカバリ DVD または Windows Vista Business DVD から Windows Vista をインストールします。Windows Vista のセットアップ時に、コンピュータ名、Administrator パスワード、およびネットワーク設定を指定します。既存のドメインに参加するか、またはワークグループモードでシステムを設定してください。

2 **[スタート] > [検索の開始]** で **winver** と入力して、Windows のバージョンを確認します。必要に応じて、Vista のサービスパック 1 をインストールします。現在のファイルをアーカイブしてシステムを再起動するオプションは、無視してください。

3 システムをウィルスから保護するため、ウィルス対策プログラムをインストールしてください。ウィルス対策プログラムを実行すると、コンピュータの動作とパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。Agilent ChemStation は、Symantecs の Norton Antivirus との実行によるテストを受けています。詳細については、「ウィルスのスキャン」72 ページ 図 を参照してください。

Windows Vista の設定

ChemStation を Windows Vista システム上で正しく動作させるには、このマニュアルに記載の一部の変更手順に従うことが必要です。これにより、アプリケーションのパフォーマンスが最適化されます。また、グラフィックやその他小さな影響を与える変更手順もあります。

注記

個々の設定の重要度を示すため、各項目は以下のとおりに分類されます。

必須 : この変更操作は必ず行ってください。

パフォーマンス : この変更操作は、システムのパフォーマンスを向上させます。

オプション : この変更操作の大部分は、アプリケーションのグラフィック表示に影響します。

注記

ユーザーアカウント制御 (UAC) がオンになっている場合、一部のコンフィグレーション手順で続行するために能動的な確認が必要になります。

（オプション） 1 レイアウト全般 : ([**スタート**]> を右クリックして > [**プロパティ**])

a [**スタート メニュー**] タブ :

- [**スタート**] メニューを選択します。
- [**プライバシー**] セクションで両方の項目を選択します。

b [**スタート メニュー**] タブ > [**カスタマイズ**] ボタン : **「[スタート] メニューのカスタマイズ」**ダイアログ : 以下のオプションをオフにします。

- [**お気に入り**] **メニュー**

c 以下のオプションをオンにします。

- コンピュータ : **リンクとして表示する**
- **接続先**
- コントロールパネル : **メニューとして表示する**
- **既定のプログラム**
- ドキュメント : **リンクとして表示する**

- **コンテキストメニューとドラッグ & ドロップ を有効にする**
- ゲーム : **この項目を表示しない**
- **ヘルプ**
- **新しくインストールされたプログラムを強調表示する**
- ミュージック : **この項目を表示しない**
- **ネットワーク**
- **マウスポインターを置いたときサブメニューを開く**

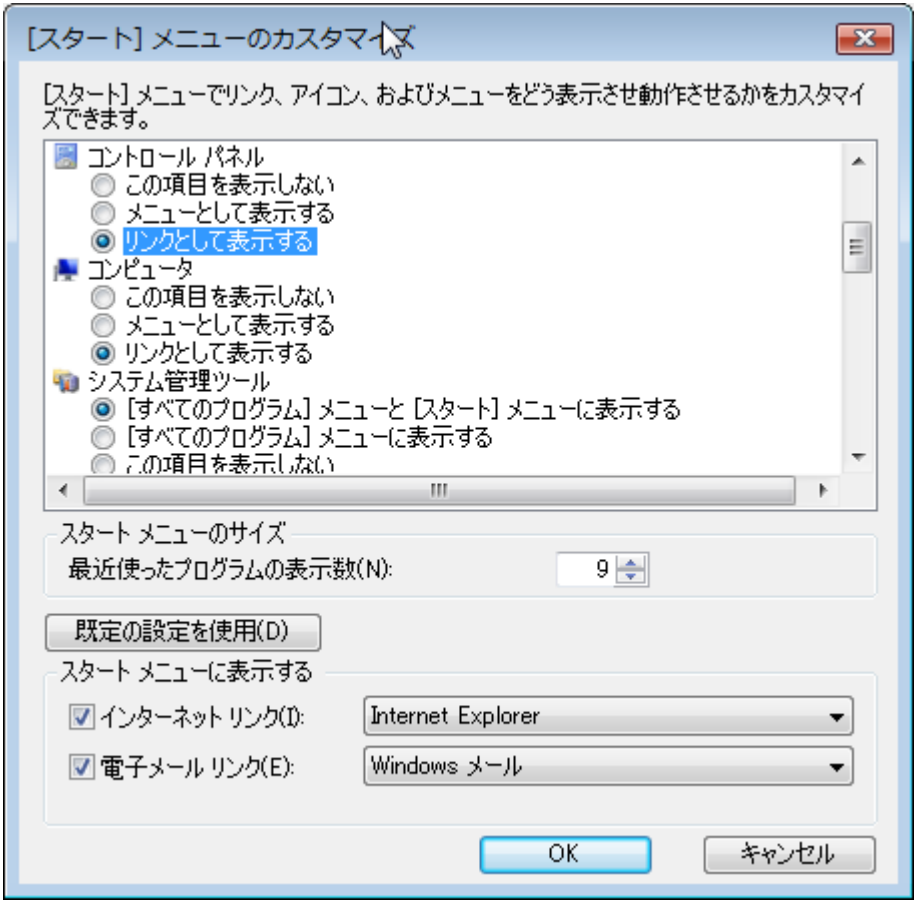


図 14 「[スタート] メニューのカスタマイズ」ダイアログ

- 個人用フォルダ : **リンクとして表示**

- ピクチャ : **リンクとして表示**
- **プリンタ**
- **ファイル名を指定して実行**
- **通信内容を検索する**
- **お気に入りと履歴を検索**
- 検索ファイル : **このユーザーのファイルを検索**
- **プログラムを検索する**
- **すべてのプログラムメニューを名前で並べ替える**
- システム管理ツール : **[すべてのプログラム] メニューと [スタート] メニューに表示する**
- **大きなアイコンを使用する**

（必須） **2** フォルダオプション : ([**スタート**] > を右クリックして > [**エクスプローラ**])

a [**表示**] を [**詳細**] に設定

b [**整理**] > [**レイアウト**] を選択します。

- [**メニューバー**] を有効にします。

c [**ツール**] > [**フォルダ オプション**] を選択

- [**全般**] タブ : [作業] で、[**従来の Windows クラシックフォルダを使う**] をクリックします。
- [**表示**] タブで 以下のオプションをオフにします。**「登録されている拡張子は表示しない」**; 以下のオプションをオンにします。**「タイトルバーにファイルのパス名を表示 (クラシックフォルダのみ)」**

d [**フォルダに適用**] ボタンを選択することで、すべてのフォルダに以上の設定を適用します。

（必須） 3 **[スタート][すべてのプログラム][Internet Explorer]。[ツール]> で > [Windows Update]** を選択して更新がないか確認し、すべての重要なセキュリティパッチを適用します (30 ページ 図 15 を参照)。

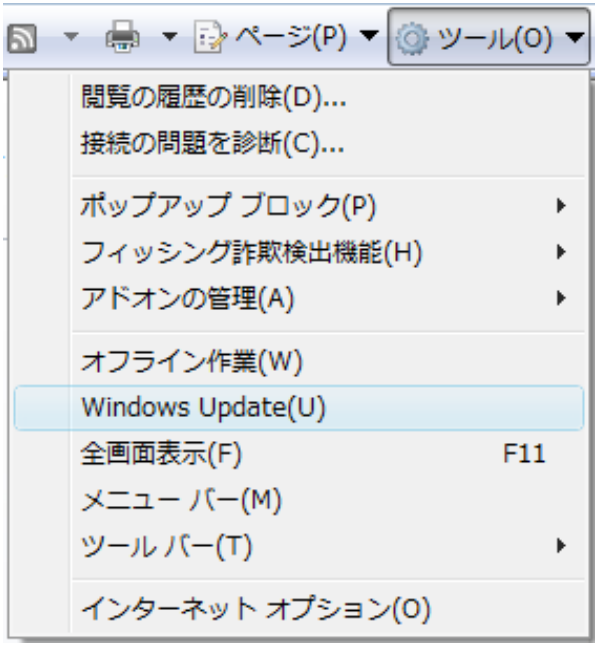


図 15 重要なセキュリティ更新プログラムのダウンロード

（必須） 4 Microsoft に Windows Vista を登録します。

（必須） 5 Windows ログオンオプション : ([**スタート**]> で > **gpedit.msc を検索**)

a **[ローカルコンピュータポリシー]** > **[コンピュータの構成]** > **[管理用テンプレート]** > **[システム] [ログオン]** と移動します (31 ページ 図 16 を参照

- **[ユーザーの簡易切り替えのエントリポイントを非表示]** と **[常に従来のログオンを使う]** を有効にします。

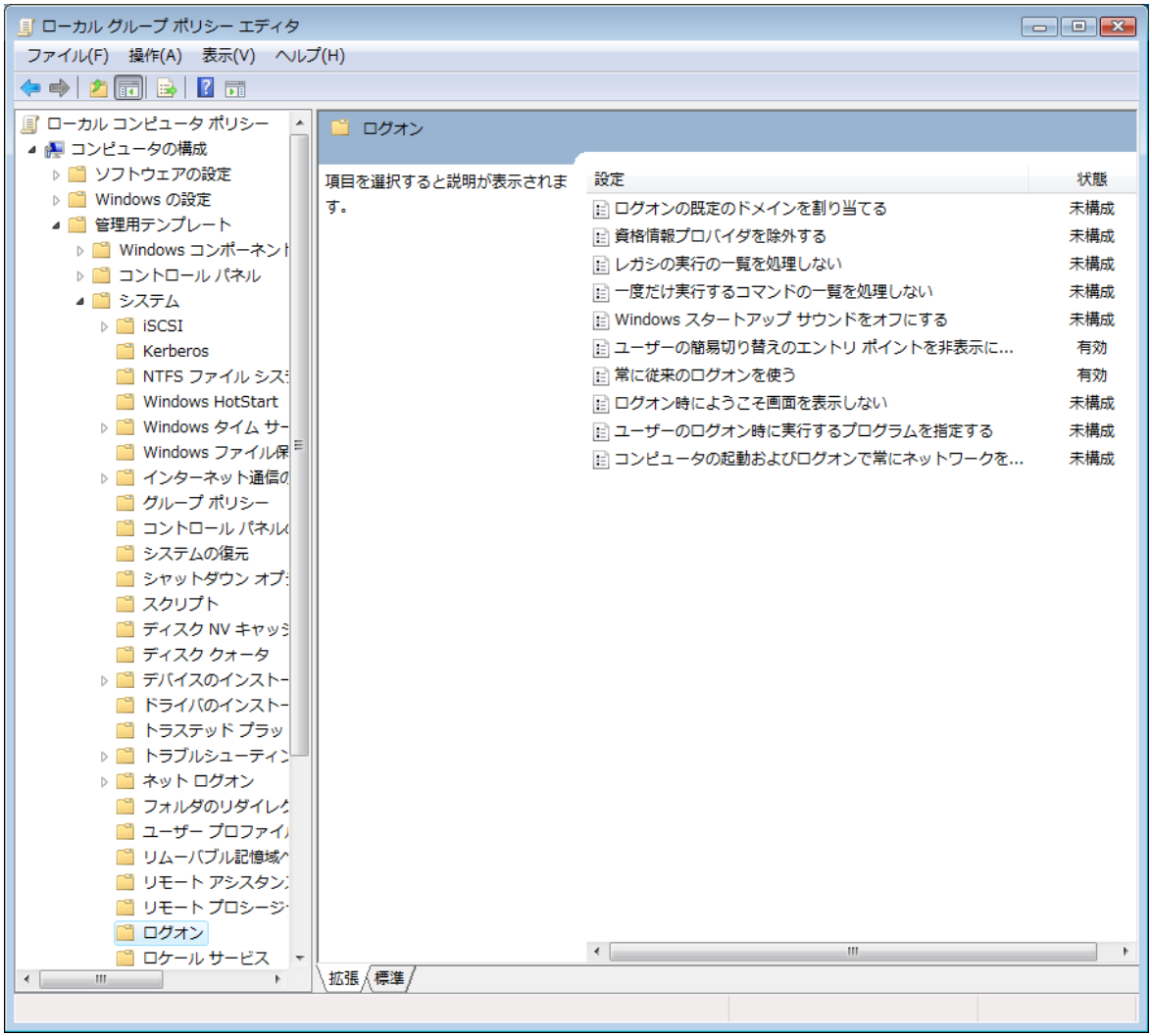


図 16　[ローカルグループポリシーエディタ] ダイアログ

（必須）　6　電源オプション: **[スタート]** > **[コントロール パネル]** > **[電源オプション]** (32 ページ 図 17 を参照)

a　電源プラン **[高パフォーマンス]** をオンにします。

b　**[プラン設定の変更]** をクリックします (33 ページ 図 18 を参照)

c [コンピュータをスリープ状態にする] のオプションを [なし] に設定します。

d [詳細な電源設定の変更] をクリックします (34 ページ 図 19 を参照)

e 変更を保存します。

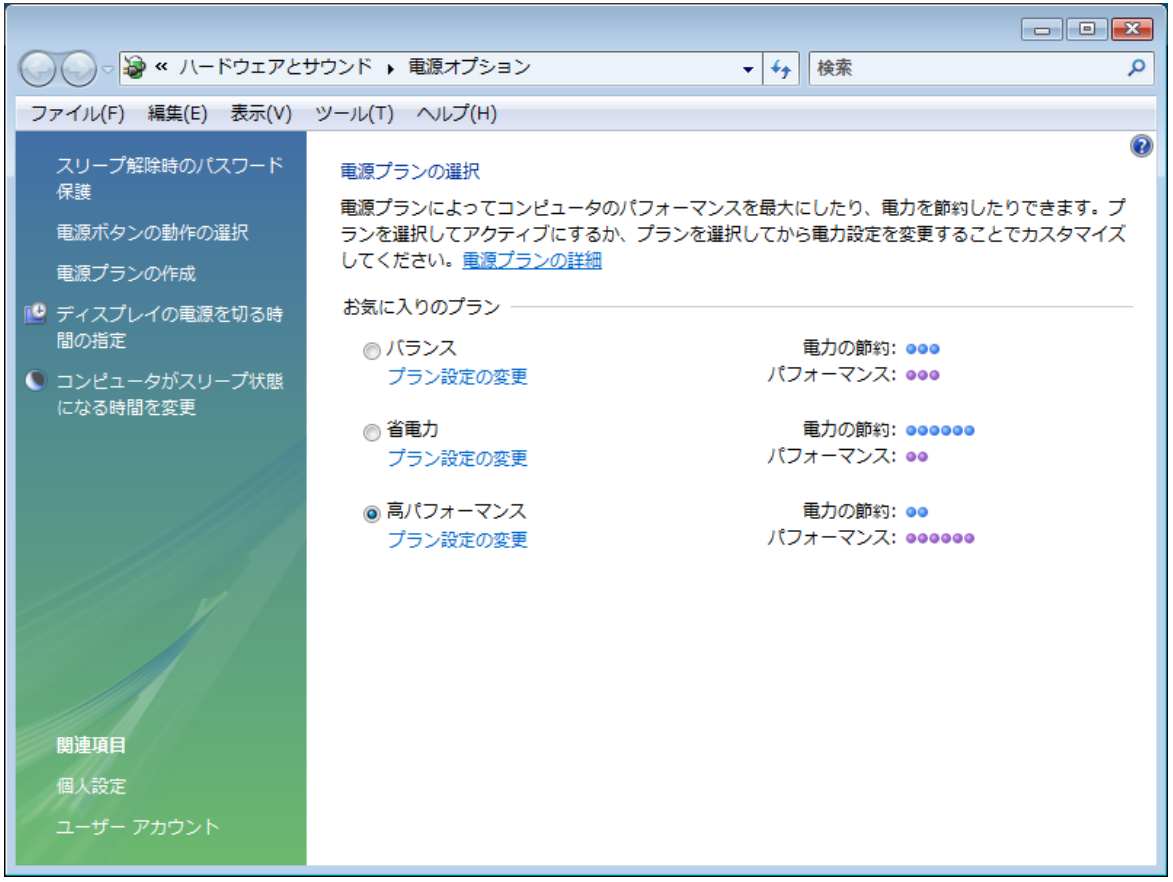


図 17 電源プランの選択

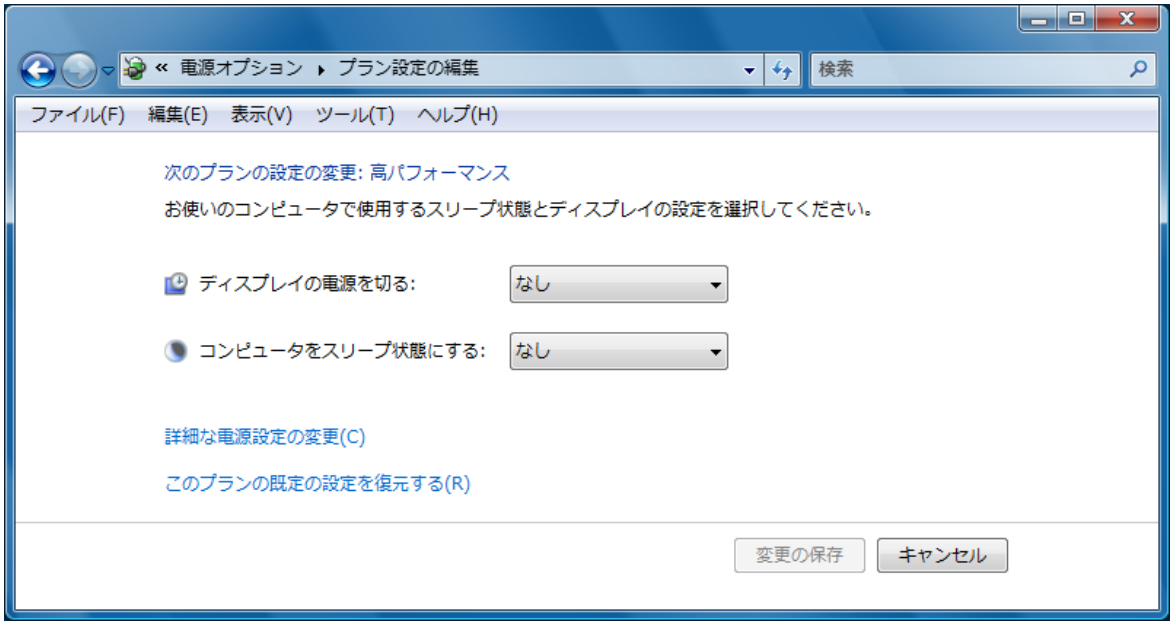


図 18 プランの設定を変更 : 高パフォーマンス

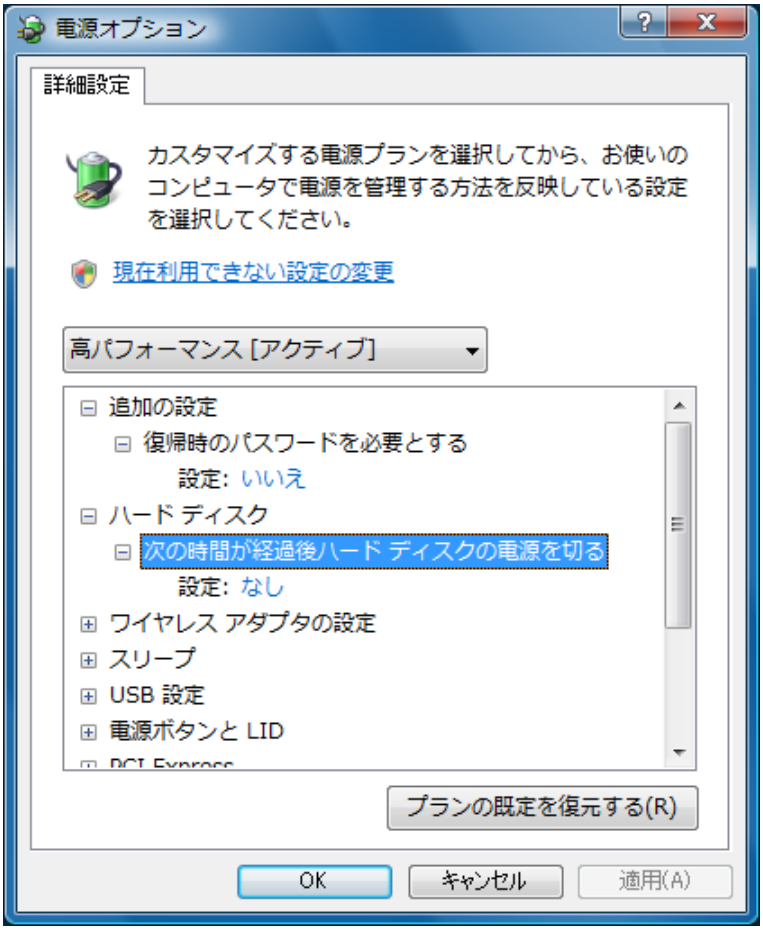


図 19 電源オプション

（必須） 7 ローカルセキュリティポリシー: ([**スタート**] > [**プログラム**] > [**管理ツール**] > [**ローカルセキュリティポリシー**])

a [**セキュリティ設定**] > [**ローカルポリシー**] > [**セキュリティオプション**] と移動します

b 右側のパネルに表示されている次のポリシーをダブルクリックします。
ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル

c 表示されたダイアログで、リストの一覧から次の項目をクリックします。
クラシック - ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する

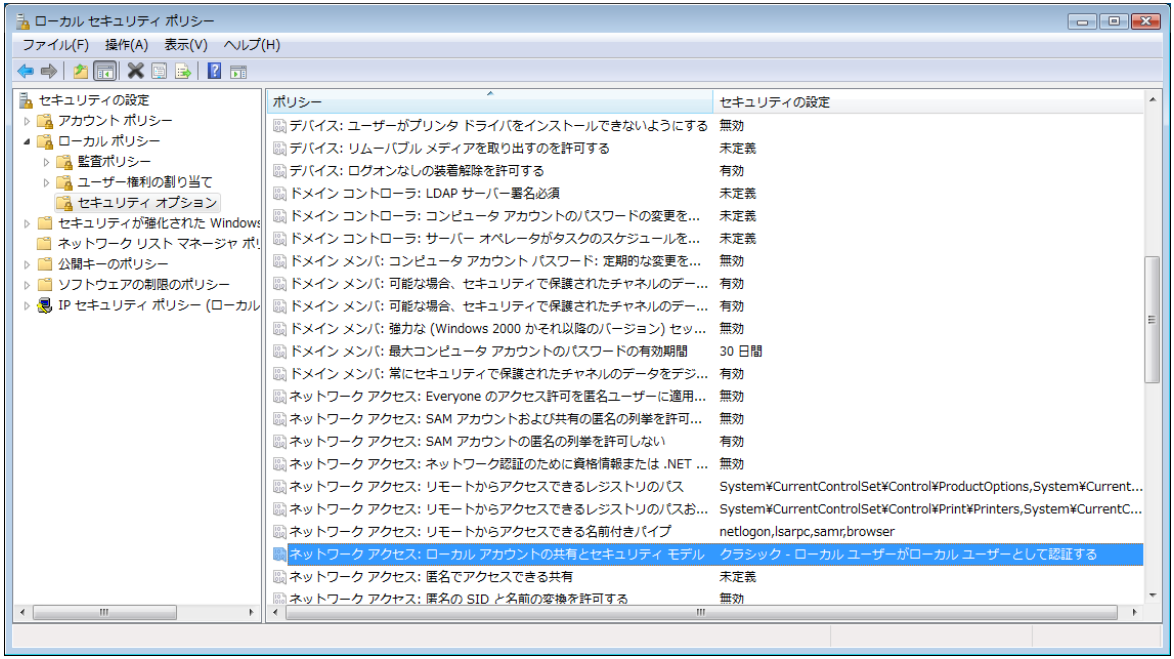


図 20 [**ローカルセキュリティポリシー**] ダイアログ

（必須） **8** 地域と言語のオプション: ([**スタート**] > [**コントロールパネル**] > [**地域と言語のオプション**]) (36 ページ 図 21 を参照)

a [形式] タブで、ドロップダウンリストから **[日本語]** を設定してください。

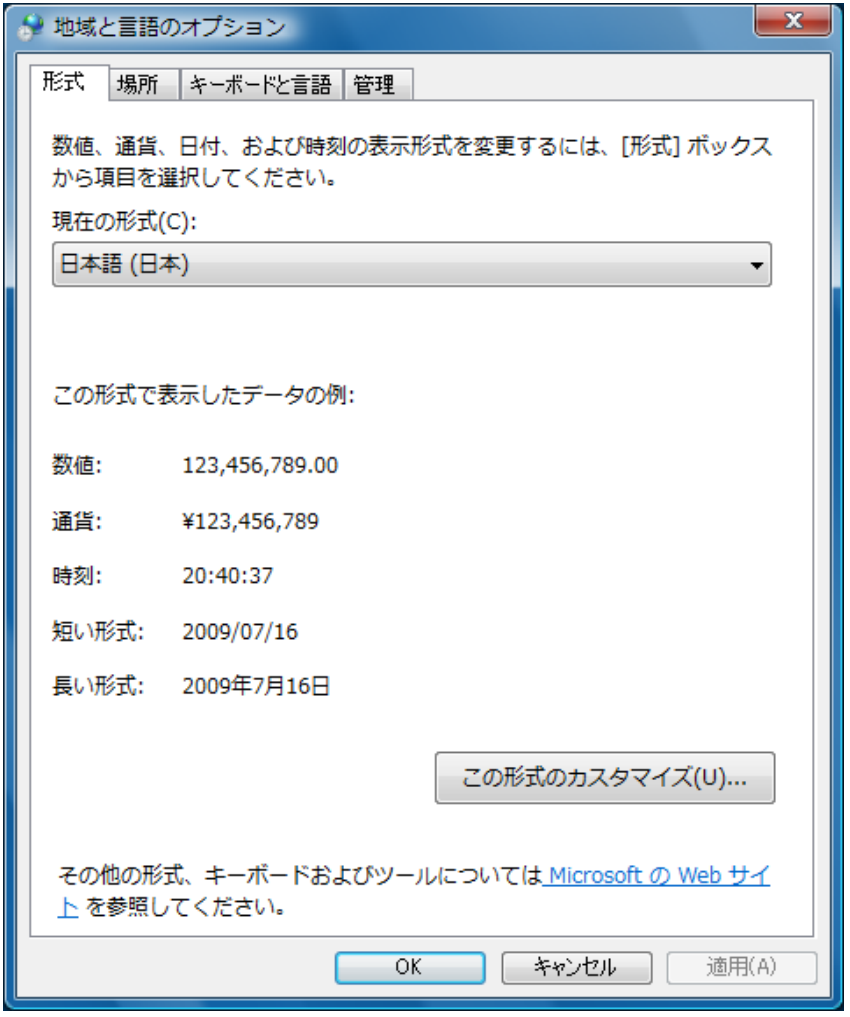


図 21 [地域と言語のオプション] ダイアログ

b [**日本語**] 以外の地域を選択する場合には必ず、以下の設定を行ってください。これらの設定を定義するには、[**この形式のカスタマイズ**] ボタンをクリックします (37 ページ 図 22 を参照)。

- 小数点の記号 = .(点)
- 桁区切り記号 = , (コンマ)
- 区切り記号 = , (コンマ)

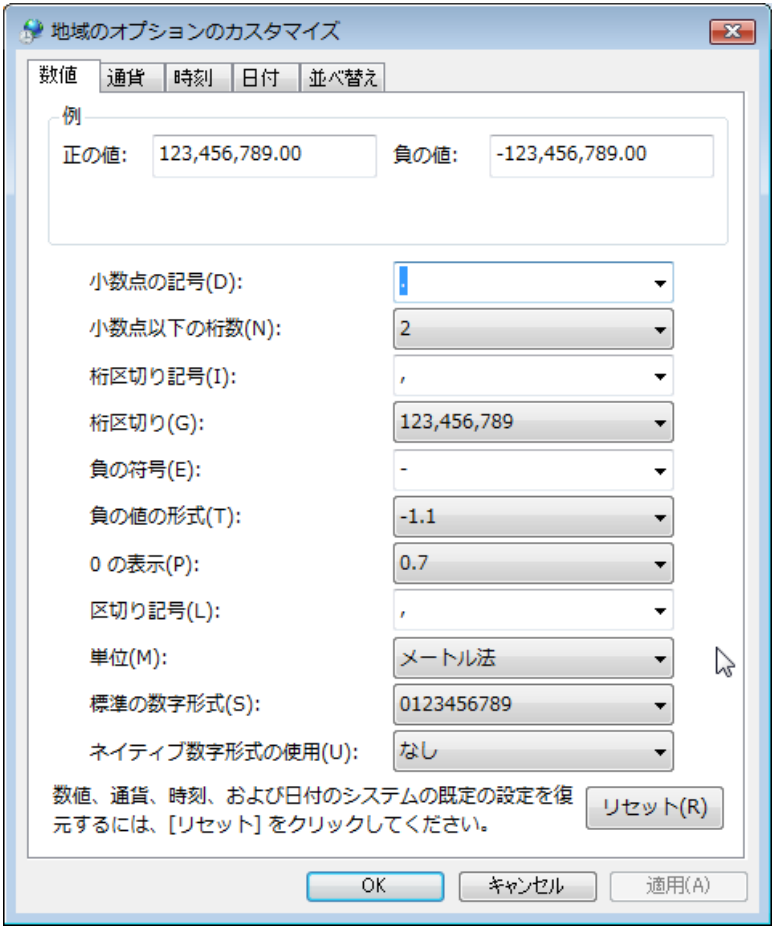


図 22 [**地域オプションのカスタマイズ**] ダイアログ

c Unicode 対応でないプログラムの言語 : **[管理]** タブで、**[システムロケールの変更]** をクリックします。ドロップダウンリストから、**[日本語]** を選択します (38 ページ 図 23 を参照)。

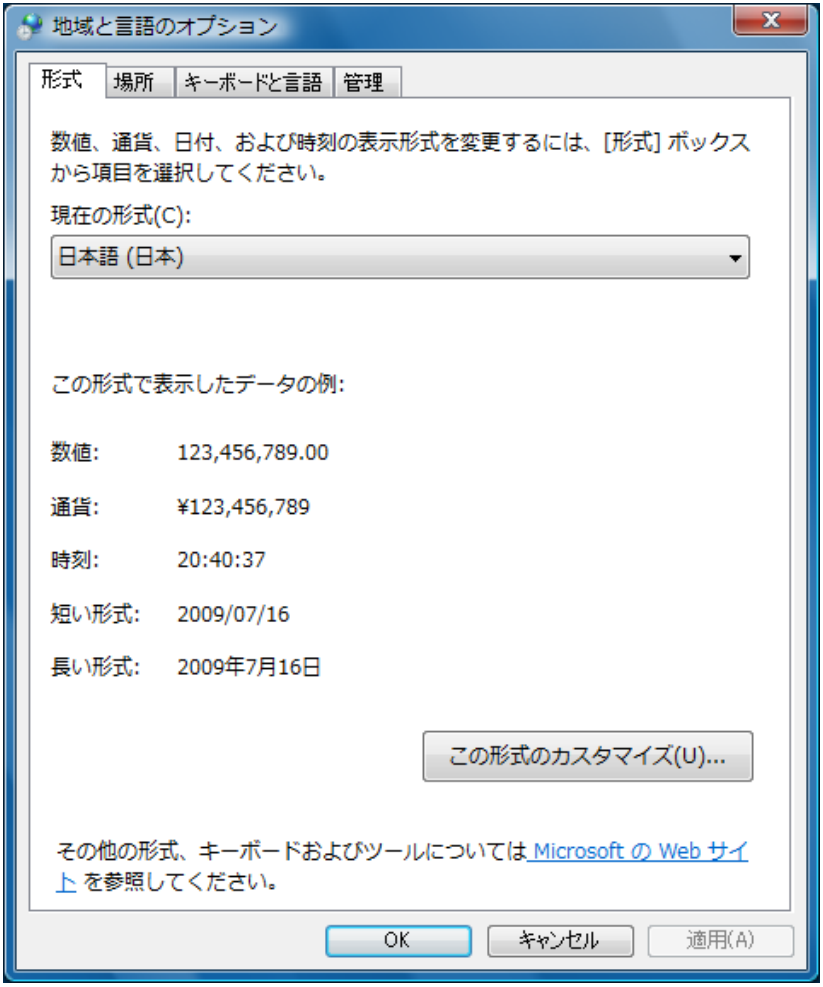


図 23 [地域と言語のオプション] ダイアログの **[管理]** タブ

（必須） 9 ネットワークデバイスの電源管理 (**[スタート][ネットワーク]**> を右クリック、> **[プロパティ]** > **[ネットワーク接続の管理]**、**[ローカル エリア接続]**> を右クリック > **[プロパティ]** > **[構成]**)

a [**電源の管理**] タブで、すべての項目をオフにします (39 ページ 図 24 を参照)。

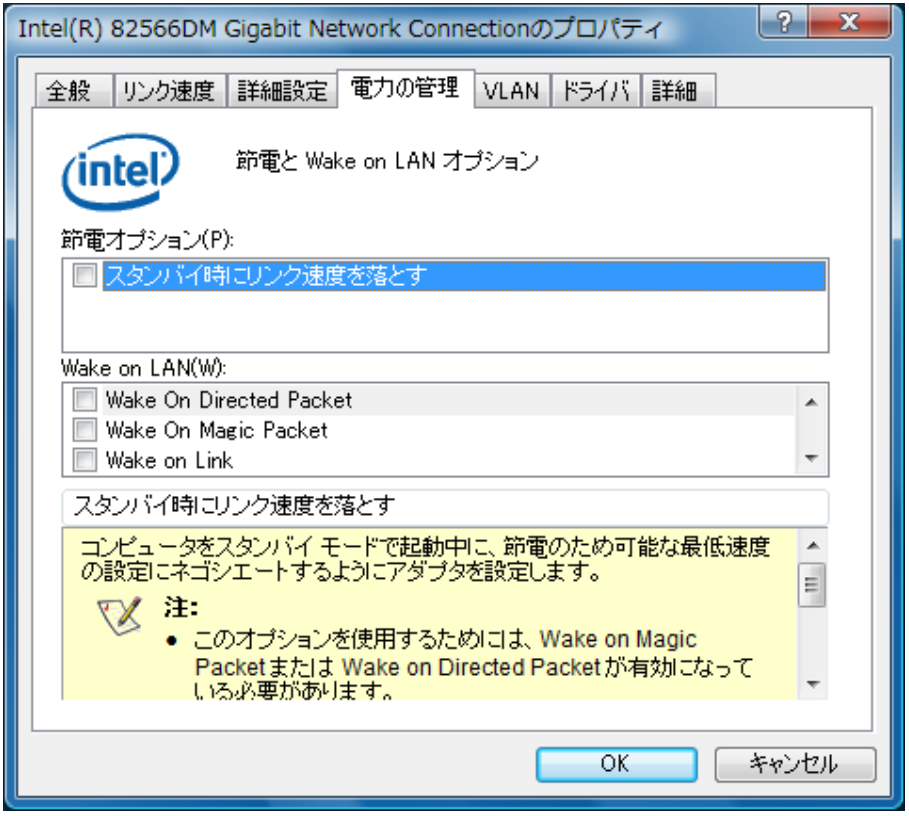


図 24 [ネットワーク接続プロパティ] ダイアログの [**電源管理**] タブ

（パフォーマンス）

10 画面レイアウト : ([**デスクトップ**]> を右クリック > [**個人設定**]):

a [**ウィンドウの色とデザイン**] をクリックします。

b **[詳細な色のオプションを設定するにはクラシックスタイルの [デザイン] プロパティを開きます]** をクリックします。

c [**効果**] を押します。3 つの項目すべてをオフにします。

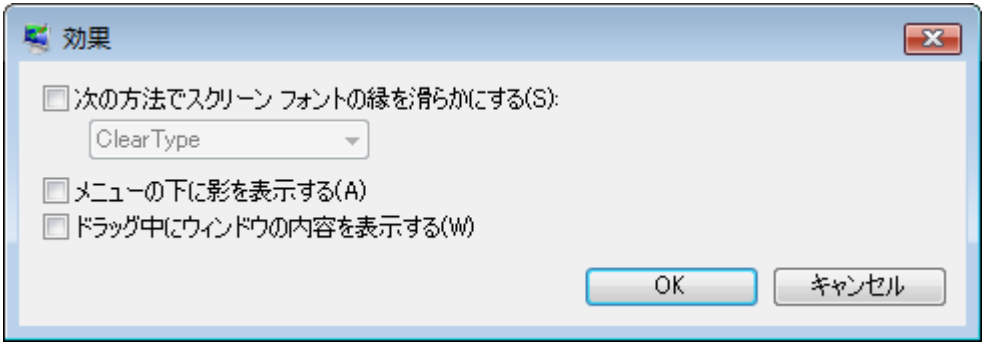


図 25 [**効果**] ダイアログ

（パフォーマンス）

11 システムのプロパティ: [**スタート**] > [**コントロールパネル**] > [**システム**]: [**システムの詳細設定**] をクリックします。

a [**詳細設定**] タブ > [**パフォーマンス**] で [**設定**] ボタンを押します

- [**詳細設定**] タブ > [**仮想メモリ**] : [**変更**] ボタンをクリックして、ページングファイルサイズを PC の物理 RAM の 2 ～ 3 倍の値に調整すると最適なパフォーマンスが得られます。
- [**データ実行防止**] タブ : **「重要な Windows プログラムおよびサービスについてのみ有効にする」** をクリックします。

b [**詳細設定**] タブ > [**起動と回復**] > [**設定**] ボタンをクリックします (41ページ 図 26 を参照)。

- [**起動システム**] セクション : 両方の **「... を表示する時間」** フィールドを **「30」** 秒間から **「3」** 秒間に変更します。
- [**システムエラー**] セクション : **「デバッグ情報の書き込み」** を **「なし」** に設定します

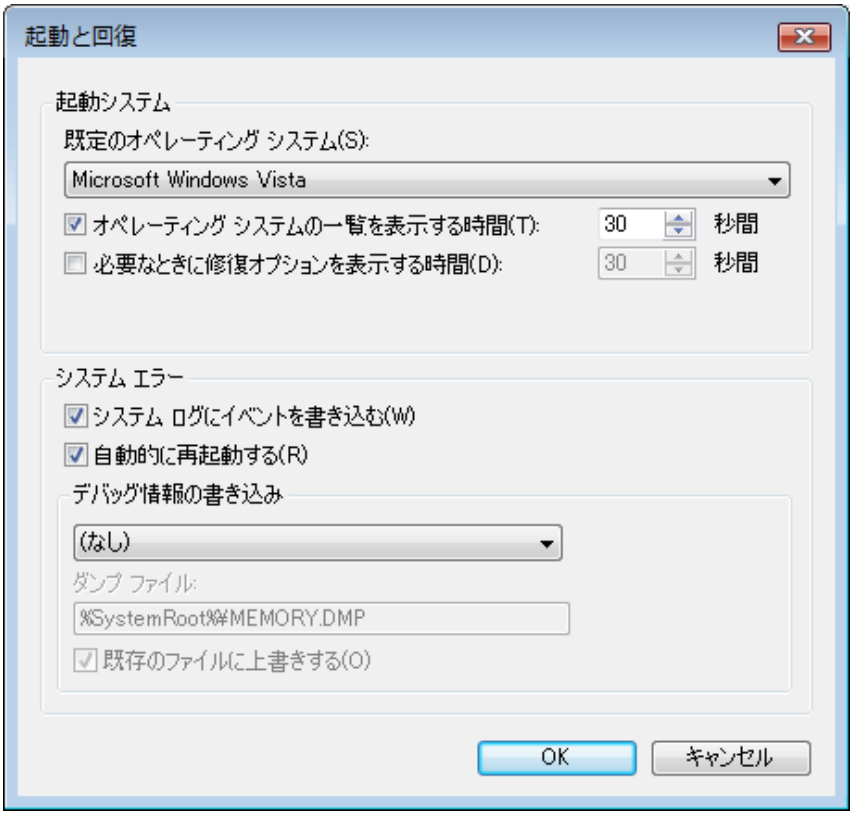


図 26 [起動と回復] ダイアログ

c [リモート] タブ

- **[リモートアシスタンス]** セクションで、**[このコンピュータへのリモートアシスタンス接続を許可する]** をオフにします。
- **[リモートデスクトップ]** セクションで、**[このコンピュータへの接続を許可しない]** をオンにします。

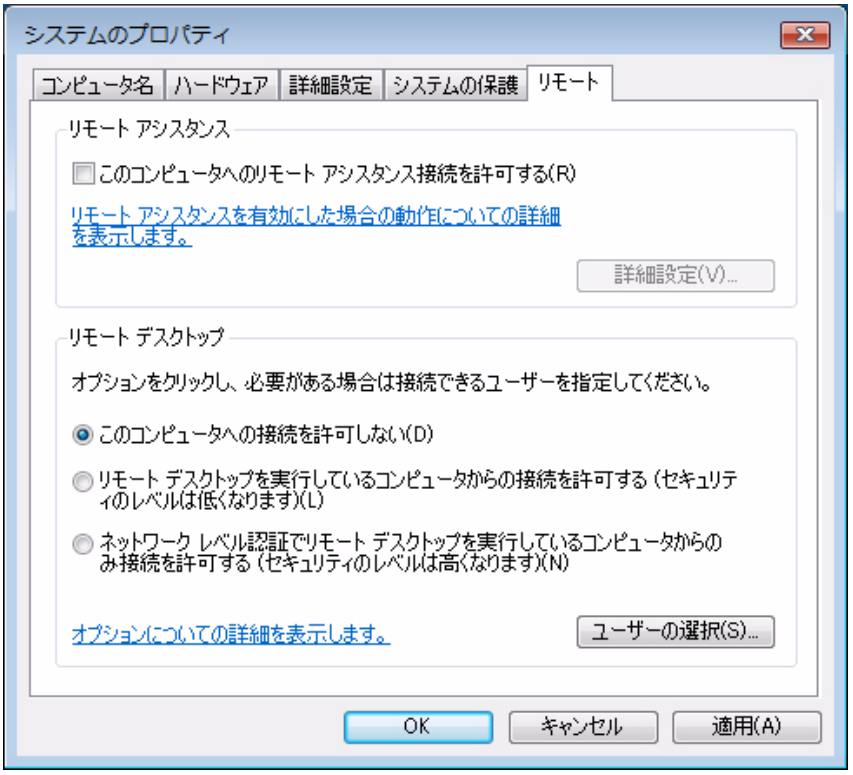


図 27 **[システムプロパティ]** ダイアログ

12 ウェルカムセンター (**[スタート]** > **'gpedit.msc' を検索**)

- **[ローカルコンピュータポリシー]** > **[コンピュータの構成]** > **[管理用テンプレート]** > **[システム]** > **[ログオン]** と移動します (43 ページ 図 28 を参照)
- **[ログオン時にようこそ画面を表示しない]** をオンにします。

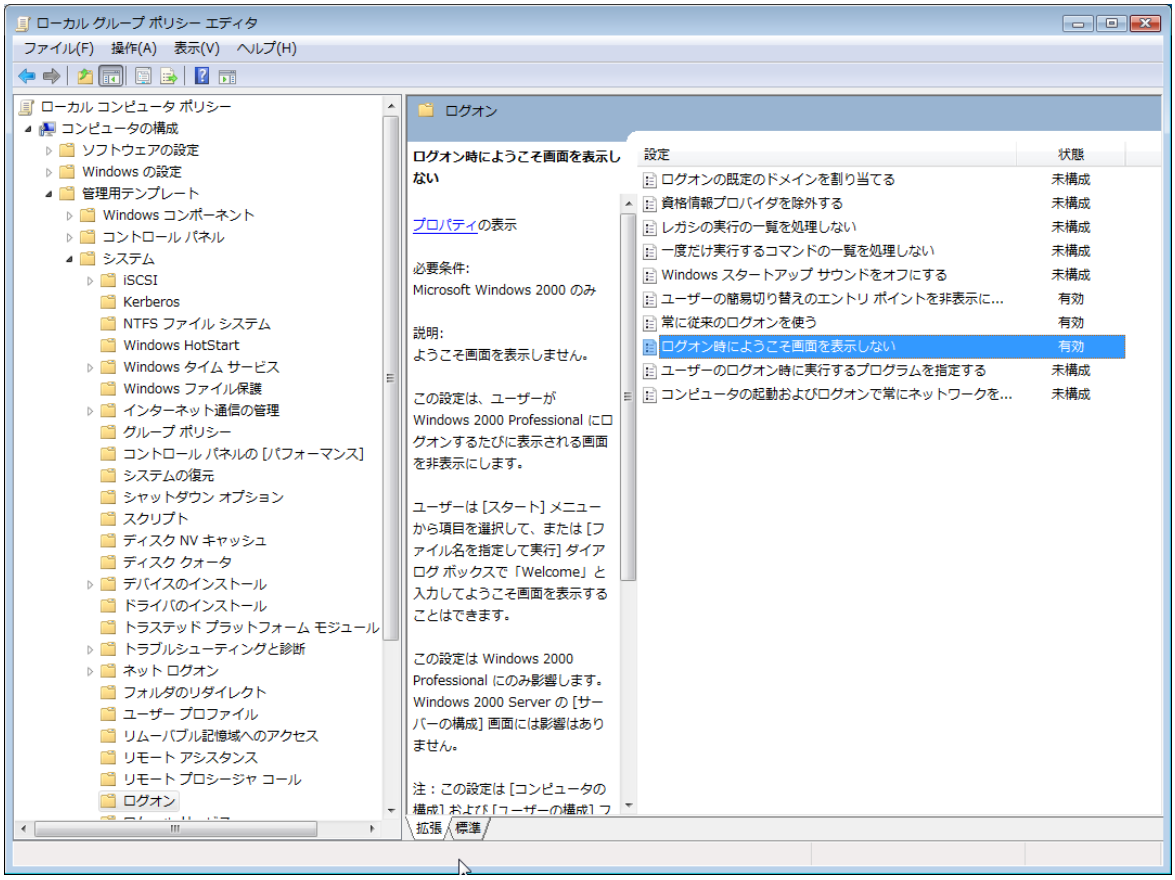


図 28　[ローカルグループポリシーエディタ] ダイアログ

（オプション）

a ごみ箱のプロパティ (デスクトップの [ごみ箱] アイコンを右クリック 以下のオプションをオンにします (23 ページ 図 13 を参照):

- **[カスタムサイズ]**; ドライブの全ディスク空き容量の約 10% に相当するサイズを選択します。
- **[削除の確認メッセージを表示する] をオンにします。**

b ご使用のコンピュータのすべてのドライブに上記手順を繰り返します。

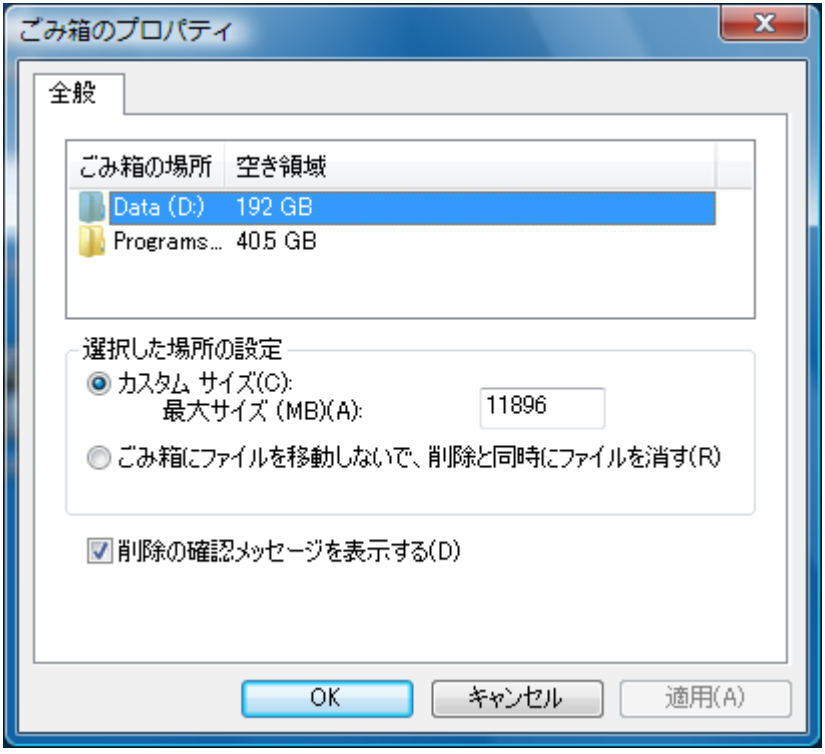


図 29 [**ごみ箱のプロパティ**] ダイアログの [全般] タブ

（オプション） 13 画面レイアウト : (デスクトップを右クリック > [**表示**]) **「等間隔に整列」**をオフにします。

3 セキュリティ設定

LC/MSD と CE/MSD システムのセキュリティ設定の 46
インターネットセキュリティ設定 : 46
詳細ネットワーク設定 : 49
LC/MSD Trap システムのセキュリティ設定 50
インターネットセキュリティ設定 50
GC 7890A システムのセキュリティ設定 55
インターネットセキュリティ設定 55
IO Library Suite 15 のセキュリティ設定 58
インターネットセキュリティ設定 58
Agilent Bootp サービスを使用するシステムのセキュリティ設定 62
インターネットセキュリティ設定 62

この章では、LC/MSD、CE/MSD、LC/MSD Trap、GC 7890A、IO Library Suite 15、Agilent Bootp サービスのすべてのセキュリティ設定を説明します。

LC/MSD と CE/MSD システムのセキュリティ設定の

ファイアウォールが有効になっている場合、LC/MSD および CE/MSD システムの MSD 部は、Windows ファイアウォールの例外を許可するように設定する必要があります。さらに、MSD との通信は **[アダプタとバインド]** ダイアログでの NIC の順番の影響を受けます。以下は、こうしたセキュリティ設定について説明します。

注記 ここでのセキュリティ設定は LC/MSD または CE/MSD システムを制御している PC のみに適用してください。

インターネットセキュリティ設定 :

[スタート] > **[設定]** > **[コントロールパネル]** > **[セキュリティ センター]**

1 **[Windows ファイアウォールのセキュリティ設定の管理]** をクリックします。

2 **[全般]** タブ (47 ページ 図 30 を参照)

   a **[有効 (推奨)]** オプションをクリックします

b [**例外を許可しない**] オプションをオフにします。

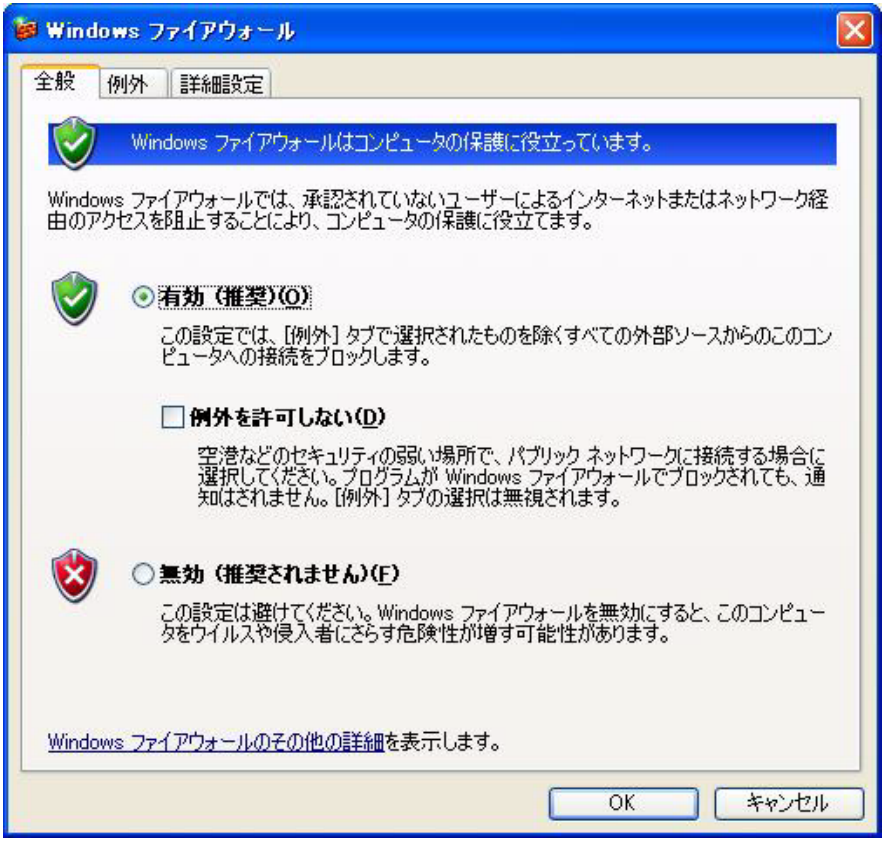


図 30 [Windows ファイアウォール] ダイアログの [**全般**] タブ

3 [**例外**] タブ (48 ページ 図 31 を参照)

a **[Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する]** オプションをオンにします。

b [**プログラムおよびサービス**] リストに「**ChemMain.exe**」を追加します。

c このプログラムの例外を有効にします。

d デフォルトで表示されているその他のプログラムは、すべてオフにします。

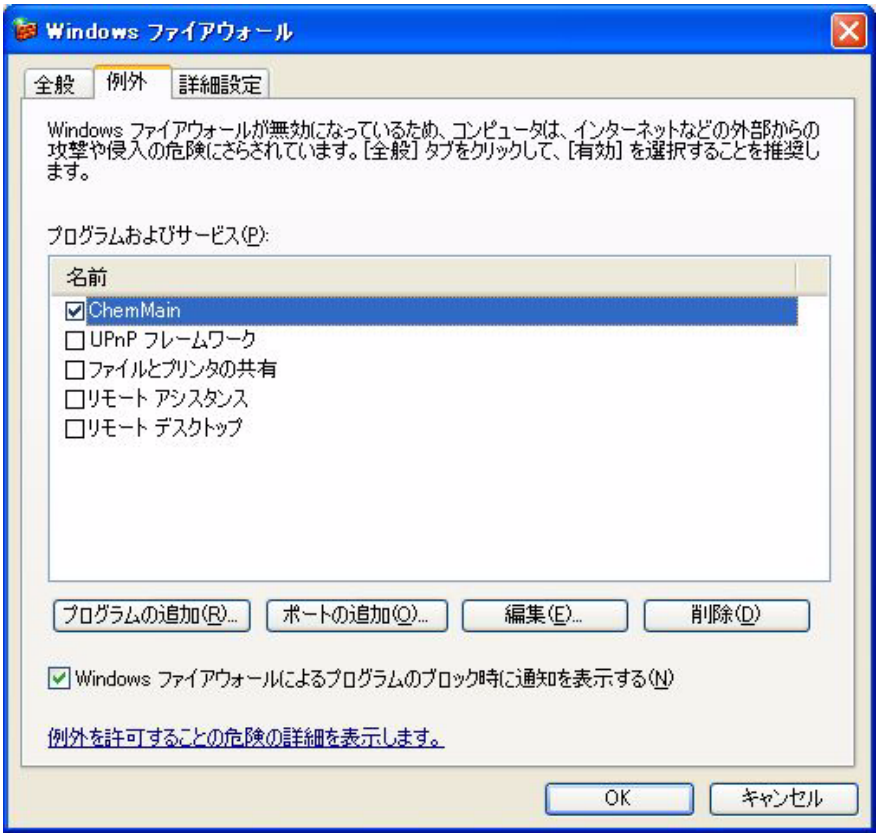


図 31 [Windows ファイアウォール] ダイアログの [**例外**] タブ

詳細ネットワーク設定 :

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [ネットワーク接続]

1 **[詳細] > [詳細設定]** メニューをクリックします。

2 **[アダプタとバインド]** タブ (49 ページ 図 32 を参照)。

   a **「LC/MS」**または**「CE/MS」**の NIC に関連している LAN 接続が接続リストの 1 番目の項目になっているか確認します。

注記

LAN カードの名前は例で示しものと異なることがあります。LAN カードに割り当てられた IP アドレスを比較することで、どの LAN カードが装置の LAN か分かります。

一般的に社内イントラネット > インターネットに関連している LAN は、組織の固定 IP 規定または DHCP サーバーにより割り当てられた IP アドレスを持ちます。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

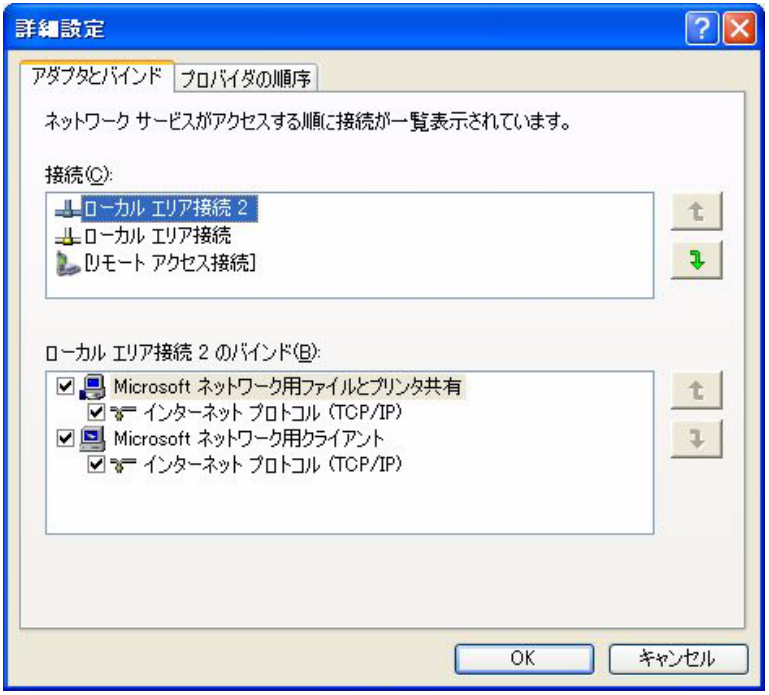


図 32 **[詳細設定]** ダイアログの **[アダプタとバインド]** タブ

LC/MSD Trap システムのセキュリティ設定

ファイアウォールが有効になっている場合、LC/MSD および LC/MSD Trap システムの MSD 部は、Windows ファイアウォールの例外を許可するように設定する必要があります。以下は、こうしたセキュリティ設定について説明します。

注記

ここでのセキュリティ設定は LC/MSD Trap システムを制御している PC のみに適用してください。

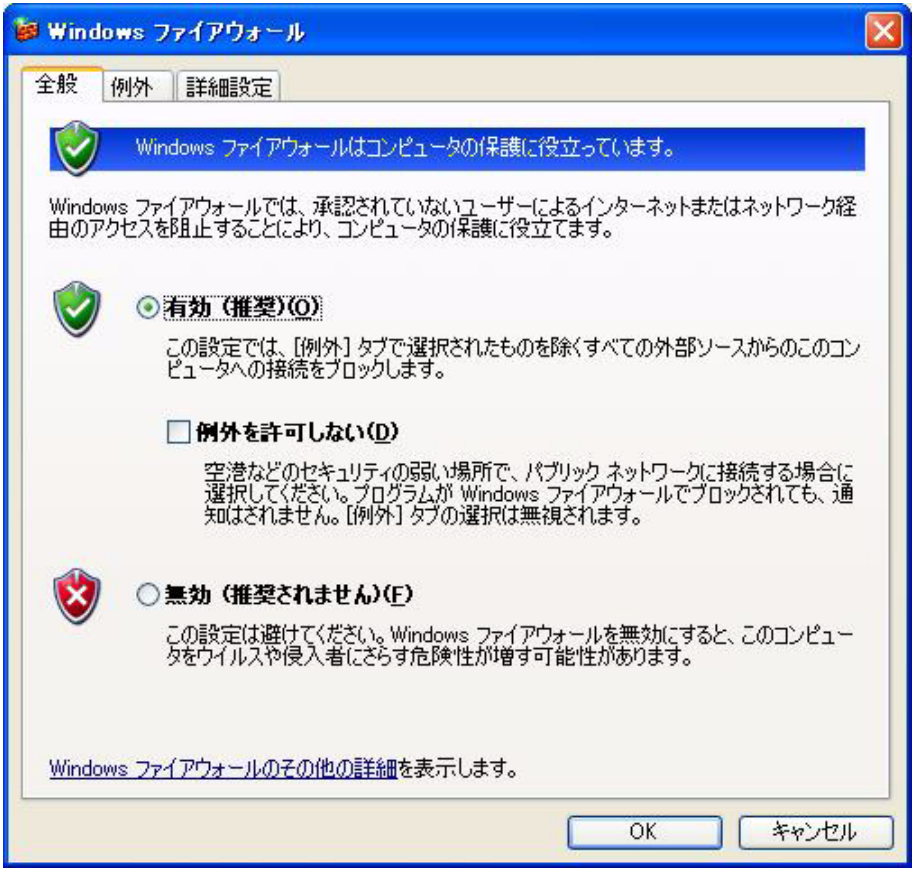
インターネットセキュリティ設定

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [セキュリティ センター]

1 **[Windows ファイアウォールのセキュリティ設定の管理]** をクリックします。

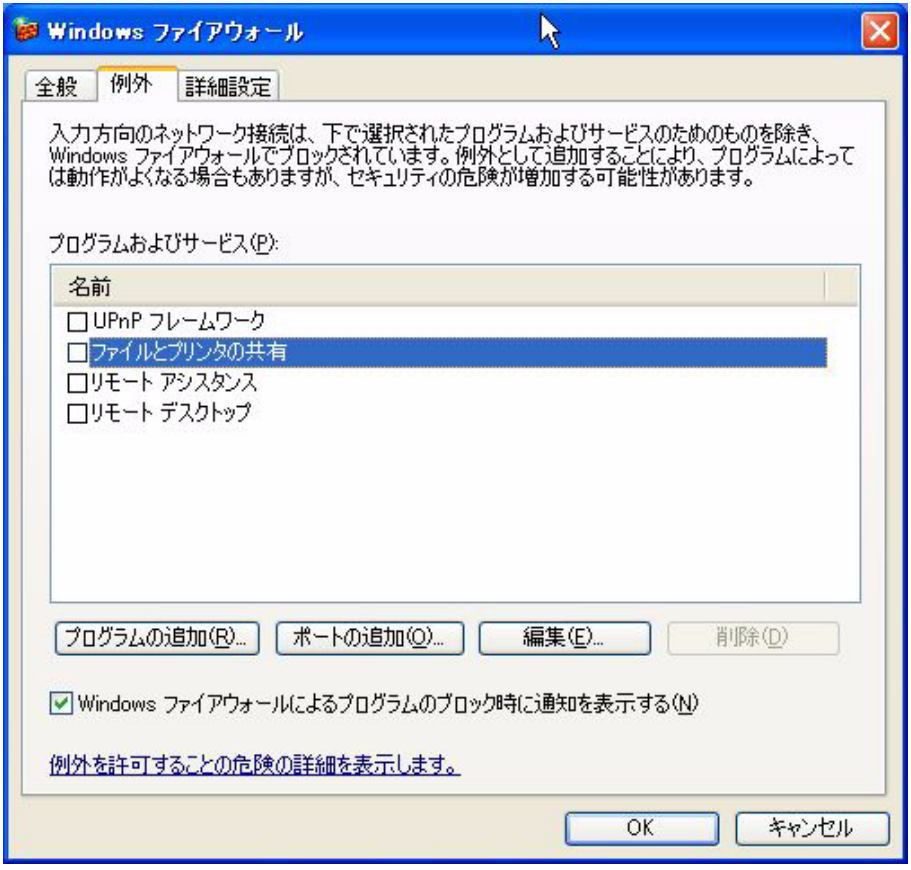
2 **[全般]** タブ (下記を参照してください):

- **[有効 (推奨)]** オプションをクリックします
- **[例外を許可しない]** オプションをオフにします。

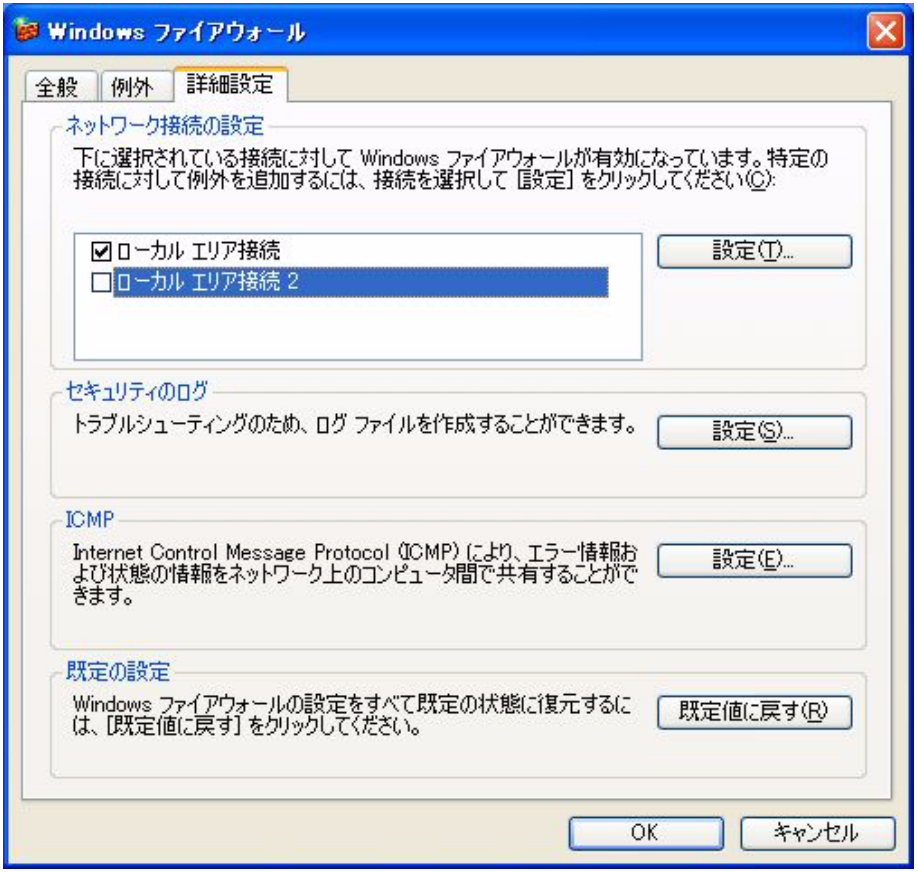


3 **[例外]** タブ (下記を参照してください):

- **[Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する]** オプションをオンにします。

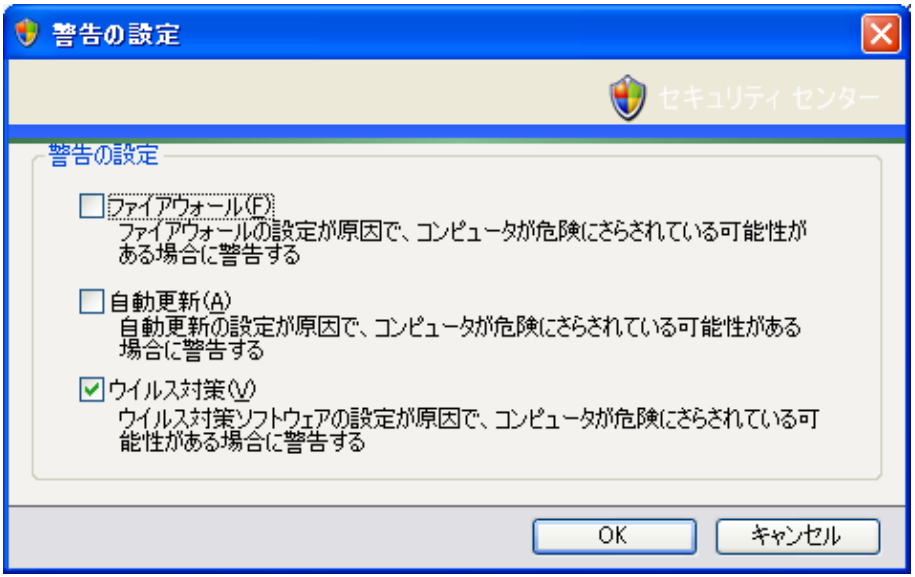


4 **[詳細設定]** タブ (下記を参照してください): **「ネットワーク接続の設定」**セクションで、「LC/MSD」 NIC と関連する「LAN 接続」の選択を解除します。一般的にこれは **「ローカルエリア接続 2」**です。



5 ヘルプのリストから、**[セキュリティセンターからの警告の方法を変更する]** をクリックします (下記参照)。

- **[自動更新]** をオフにします。
- **[ファイアウォール]** をオフにします。
- **[ウィルス対策]** をオンにします。



注記 こうしたセキュリティ設定にすると、「Windows ファイアウォール」の状態に関する警告は受け取らなくなります。ご自身で「Windows ファイアウォール」の状態をモニタリングしてください。

GC 7890A システムのセキュリティ設定

ファイアウォールが有効になっている場合、GC 7890A システムは、Windows ファイアウォールの例外を許可するように設定する必要があります。以下は、こうしたセキュリティ設定について説明します。

注記 これらの設定は、GC 7890A システムを制御する PC のみに適用してください。

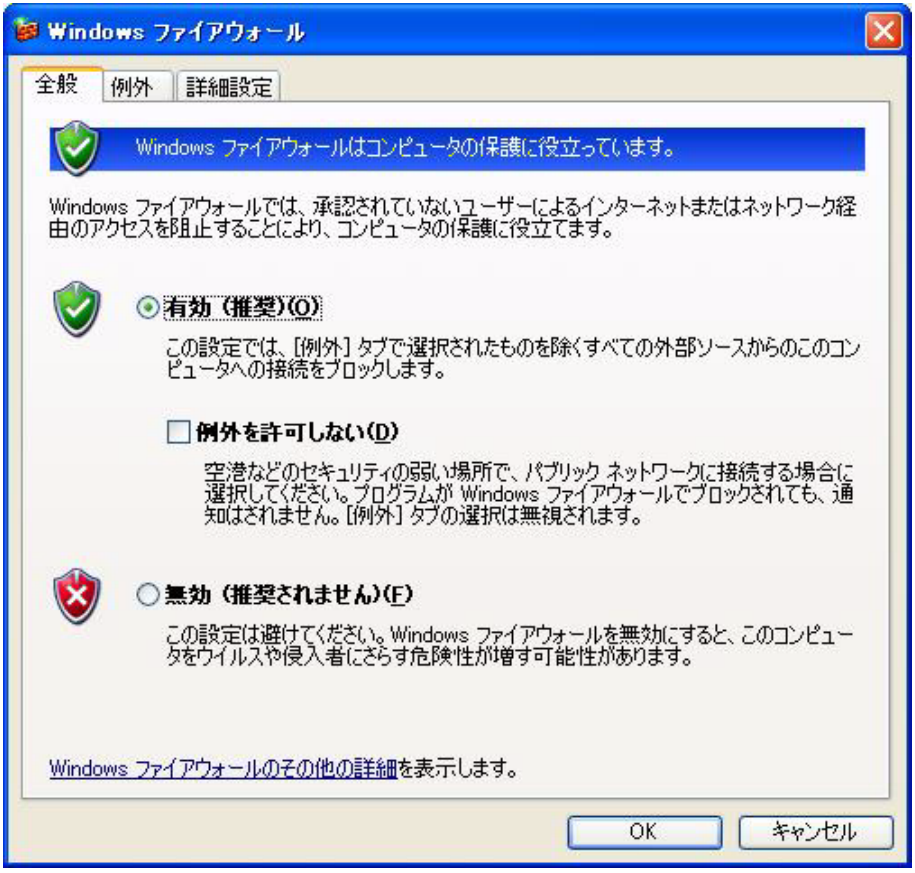
インターネットセキュリティ設定

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [セキュリティ センター]

1 **[Windows ファイアウォールのセキュリティ設定の管理]** をクリックします。

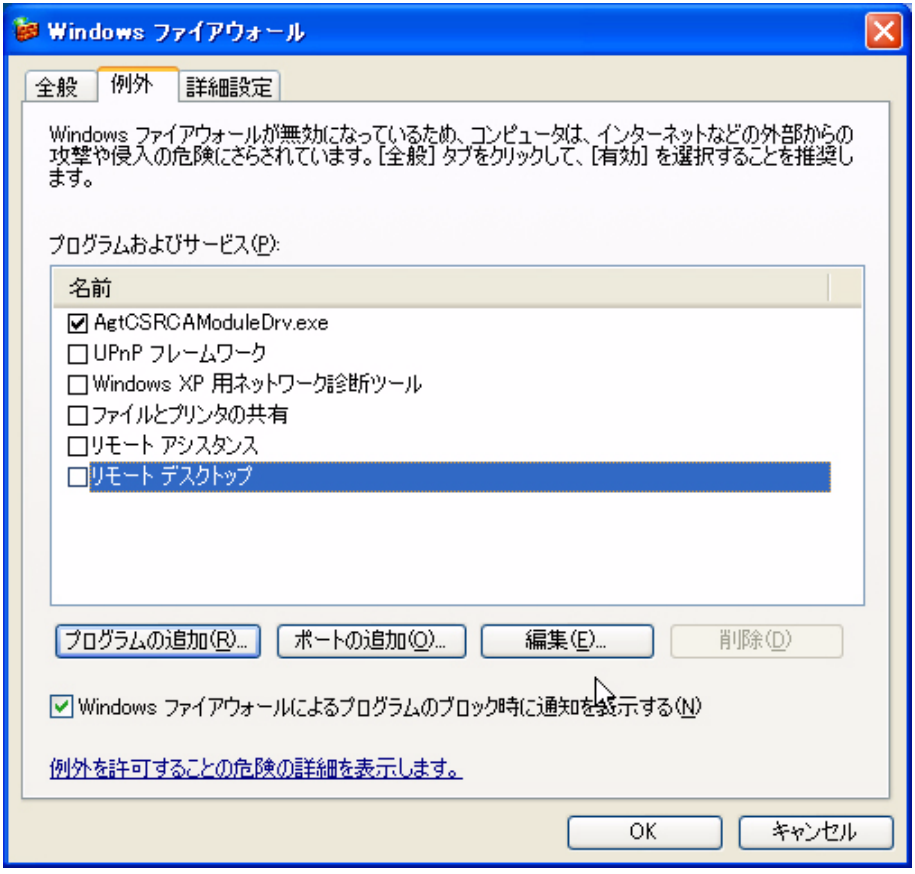
2 **[全般]** タブ (下記を参照してください):

- **[有効 (推奨)]** オプションをクリックします
- **[例外を許可しない]** オプションをオフにします。



3 **[例外]** タブ (下記を参照してください):

- **[Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する]** オプションをオンにします。
- **AgtCSRCAModuleDrv.exe** を **プログラムおよびサービス** のリストに追加し、プログラムの例外を有効にします。
- デフォルトで表示されているその他のプログラムは、すべてオフにします。



IO Library Suite 15 のセキュリティ設定

ファイアウォールが有効になっている場合、IO Library Suite 15.0 では、Windows ファイアウォールの例外を許可するように設定する必要があります。以下は、こうしたセキュリティ設定について説明します。

注記 これらの設定は、IO Library Suite 15.0 がインストールされている PC のみに適用してください。

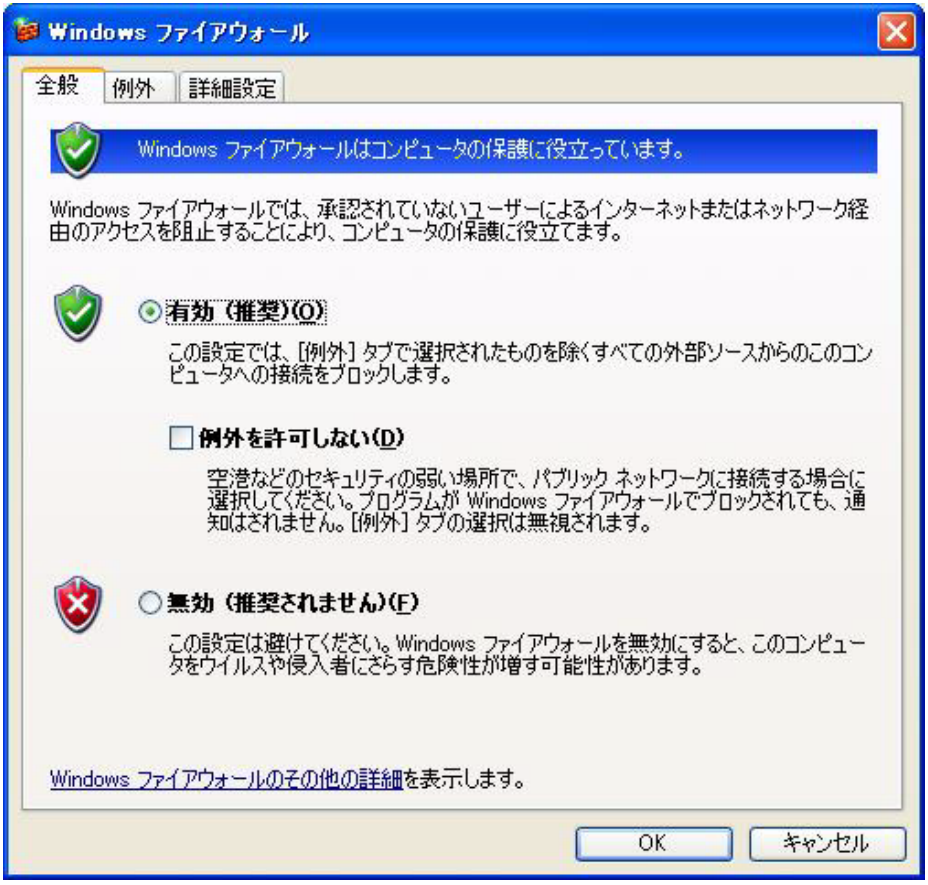
インターネットセキュリティ設定

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [セキュリティ センター]

1 **[Windows ファイアウォールのセキュリティ設定の管理]** をクリックします。

2 **[全般]** タブ (下記を参照してください):

- **[有効 (推奨)]** オプションをクリックします
- **[例外を許可しない]** オプションをオフにします。

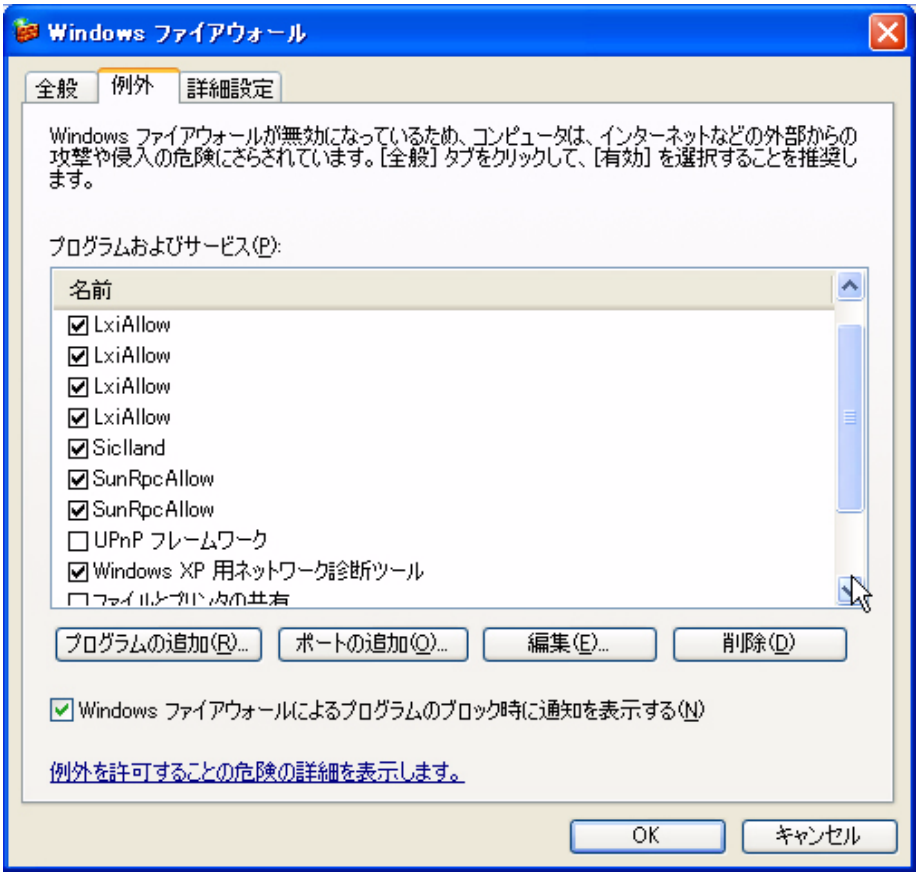


3 **[例外]** タブ (下記参照)

- **[Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する]** オプションをオンにします。
- **[プログラムおよびサービス]** リストに**「Sicland.exe」**を追加します。
- このプログラムの例外を有効にします。
- **[プログラムおよびサービス]** リストに以下のポートを追加します。
  - LxiAllow:5044 (UDP)
  - LxiAllow:5044 (TCP)
  - LxiAllow:320 (UDP)
  - LxiAllow:319 (UDP)
  - SunRpcAllow:111 (UDP)
  - SunRpcAllow:111 (UPD)
- これらのポートの例外をオンにします。
- デフォルトで表示されているその他のプログラムは、すべてオフにします。

注記

上記プログラムとポートは、デフォルトとして、IO Library Suite 15.0 のインストール時のファイアウォールの例外リストに追加されます。


Windows ファイアウォール
全般
例外
詳細設定
Windows ファイアウォールが無効になっているため、コンピュータは、インターネットなどの外部からの攻撃や侵入の危険にさらされています。[全般] タブをクリックして、[有効] を選択することを推奨します。
プログラムおよびサービス(P):
名前
LxiAllow
LxiAllow
LxiAllow
LxiAllow
SicIland
SunRpcAllow
SunRpcAllow
UPnP フレームワーク
Windows XP 用ネットワーク診断ツール
プログラムの追加(R)...
ポートの追加(O)...
編集(E)...
削除(D)
Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する(N)
例外を許可することの危険の詳細を表示します。
OK
キャンセル

Agilent Bootp サービスを使用するシステムのセキュリティ設定

LAN 上で Agilent 機器の IP アドレス管理に Agilent Bootp サービスをご使用になる場合には、Windows ファイアウォールの例外を許可するように設定する必要があります。以下は、こうしたセキュリティ設定について説明します。

注記

ここでのセキュリティ設定は、Agilent Bootp サービスを使用する PC のみに適用してください。

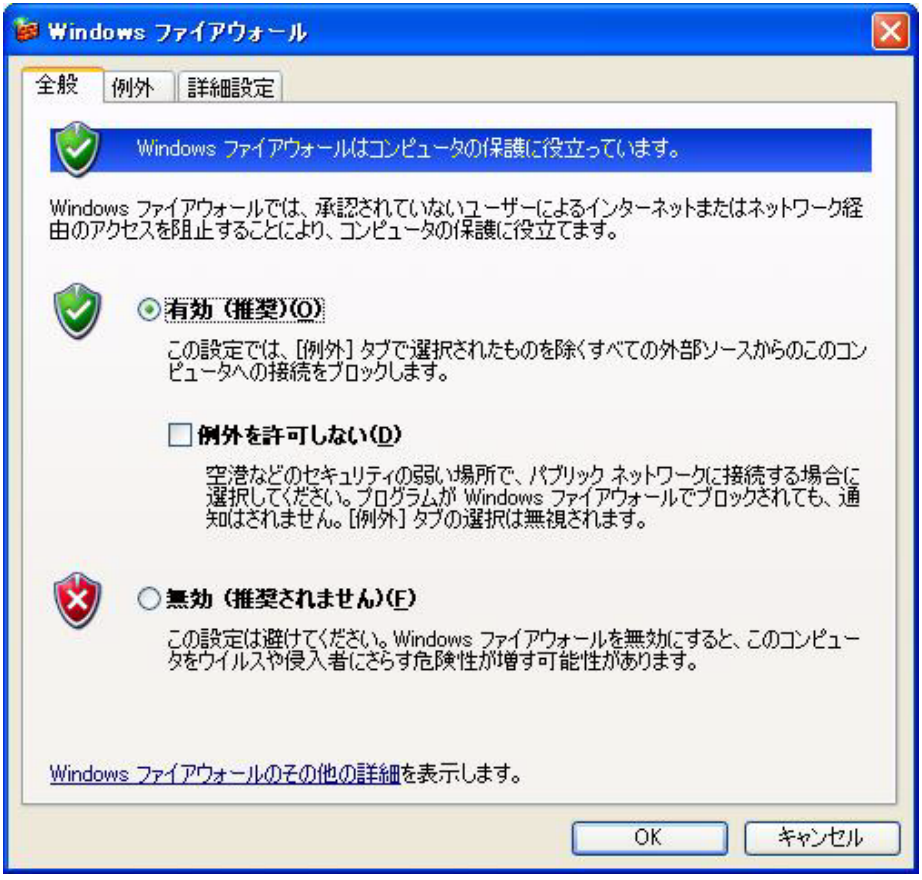
インターネットセキュリティ設定

[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [セキュリティ センター]

1 **[Windows ファイアウォールのセキュリティ設定の管理]** をクリックします。

2 **[全般]** タブ (下記を参照してください):

- **[有効 (推奨)]** オプションをクリックします
- **[例外を許可しない]** オプションをオフにします。



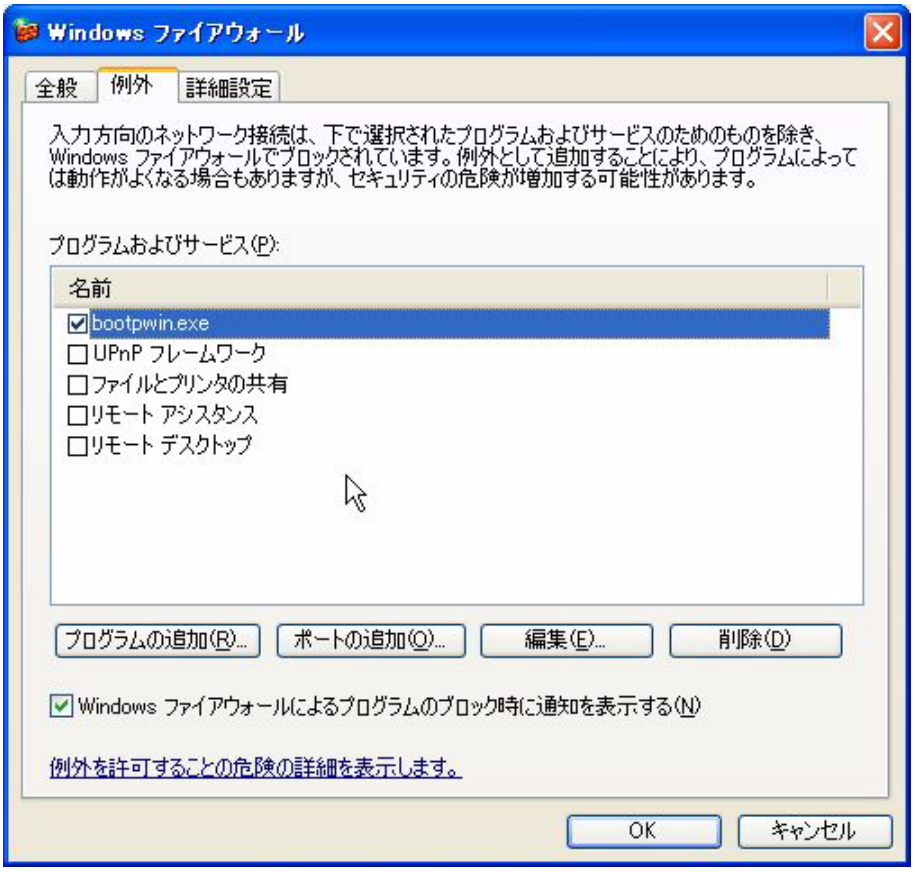
3 **[例外]** タブ (下記を参照してください):

- **[Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する]** オプションをオンにします。
- **bootpwin.exe** をプログラムおよびサービスのリストに追加し、プログラムの例外を有効にします。

注記

「bootpwin.exe」は、c:\Program Files\Common Files\Agilent Shared\BootP\bin フォルダにあります。

- デフォルトで表示されているその他のプログラムは、すべてオフにします。



4 その他の変更操作

ChemStation のインストール　66

ChemStation をパワーユーザー / ユーザーとして実行するための
プロファイルとグループポリシー　66

これらの変更操作は、Administrator のユーザーアカウントのみで実行できます。

ChemStation のインストール

1 ChemStation ソフトウェアを C:\Chem32 にインストールします (**Administrator** ユーザーアカウントでログオン)。

ChemStation をパワーユーザー / ユーザーとして実行するためのプロファイルとグループポリシー

ChemStation システムは、OS の Administrator ユーザーアカウントでインストールする必要があります。このマニュアルで説明したオプション設定でシステムを実行するには、すべてのユーザーとパワーユーザーが同じ設定を使用する必要があります。

説明した一部の設定は、Windows グループポリシーを使用したり、ユーザープロファイルをコピーすることで簡略化できます。これで、ユーザー / パワーユーザーのセットアップを簡略化できます。ただし、パフォーマンス設定などの変更は、Administrator ユーザーアカウントによるマニュアル設定でのみ可能です。

5 PC のファイルシステムのメンテナンス

NTFS ボリュームのスキャンと修復 68
NTFS ボリュームのデフラグ 70
ウィルスのスキャン 72
残存している一時ファイルのクリーンアップ 73
バックアップ 75
- Windows XP のバックアップ 75
- Windows XP のバックアップの自動化とスケジュール 75
- Travan テープドライブ 76
- デジタルオーディオテープ (DAT) ドライブ 76
- 光磁気 (MO) ディスクドライブ 77
- レコーダブル CD-ROM 77
- レコーダブル DVD 77
- ネットワークサーバー 78

ChemStation システムのパフォーマンスを最適化するには、不必要なファイルの削除など定期的なメンテナンスを予定に組み込むことが重要です。定期メンテナンスのスケジュールの一部として、以下の手順を行ってください。

注記 この作業を行うには、Administrator 権限が必要です。

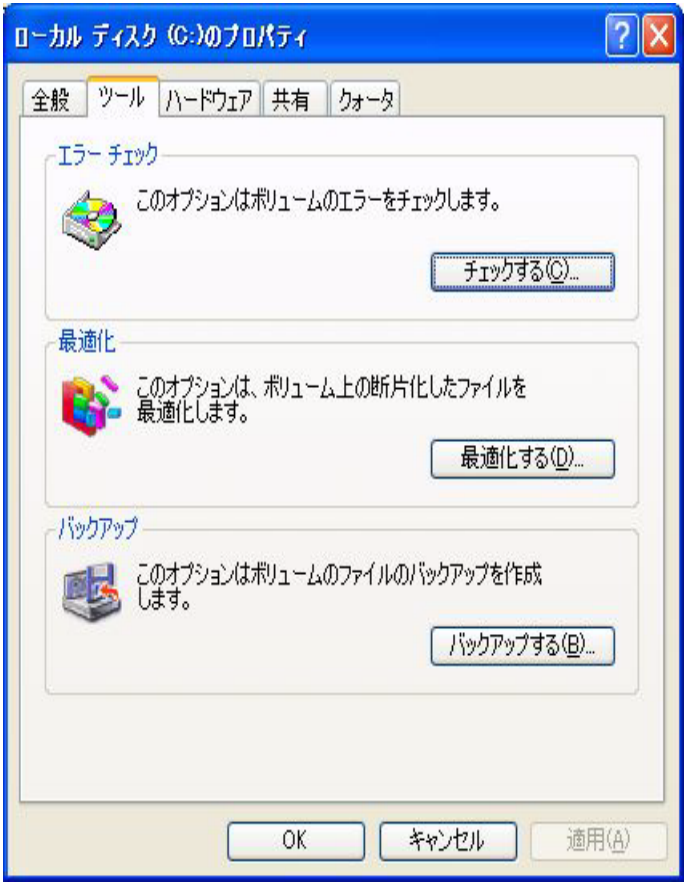
NTFS ボリュームのスキャンと修復

1 デスクトップの [**マイコンピュータ**] をダブルクリックします。

2 C: ドライブを選択します。ドライブ

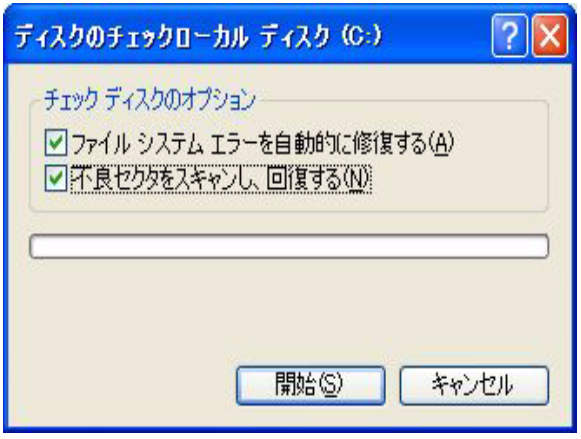
3 [**ファイル**] > [**プロパティ**] を選択します。

4 [**ツール**] タブで、**「エラーチェック」**セクションの**「チェックする」**をクリックします。

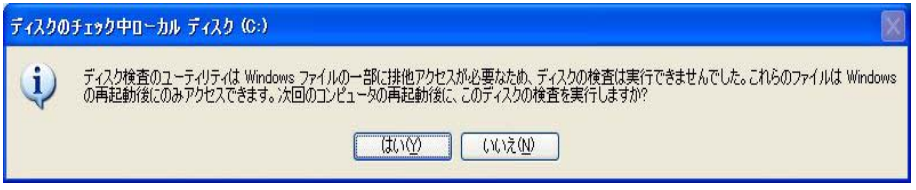


5 **チェックディスク**のオプションである**「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」**と**「不良セクタをスキャンし、回復する」**を両方ともオンにします。

6 **[開始]** ボタンをクリックします。



7 警告メッセージ **「ディスク検査のユーティリティは Windows ファイルの一部に排他アクセスが必要なため、ディスクの検査は実行できませんでした。これらのファイルは Windows の再起動後にのみアクセスできます。次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか ?」**が表示されます。**[はい]** をクリックします。



8 コンピュータを再起動します。起動中に、**ディスクのチェック**が行われます。

9 コンピュータの残りのドライブに対して、上記の手順を繰り返します。

NTFS ボリュームのデフラグ

NTFS ボリューム上のファイルの断片化は、FAT ファイルシステムと比べると著しく軽減されています。NTFS ボリュームでは設計上、ドライブにあるファイルのサイズが増大した場合にのみ断片化が起こります。つまり、ボリュームをテープにバックアップして、テープからそのボリュームを復元すると、ボリュームは断片化されません。

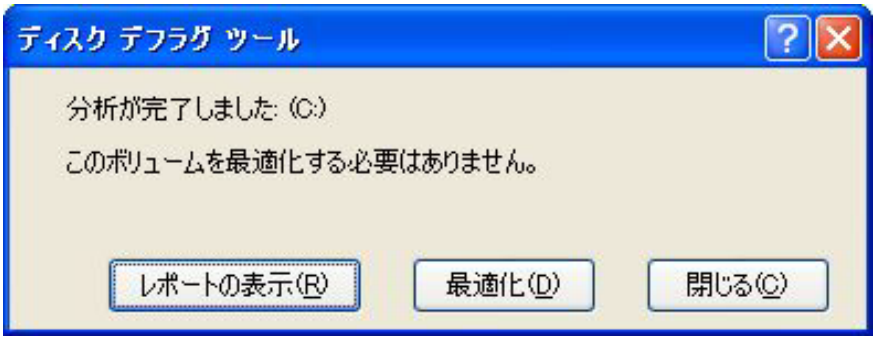
Windows XP Professional では、デフラグユーティリティが付属しています。

Microsoft Windows のデフラグユーティリティを使用するには、以下の手順に従います。

1 **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[アクセサリ]** > **[システムツール]** > **[ディスクデフラグ]** を選択します。

2 分析するドライブを選択して (C: など) **分析** ボタンをクリックします。

3 分析の結果によってドライブのデフラグが必要である場合には、[**最適化**] をクリックします。または、デフラグが必要でない場合には、[**閉じる**] をクリックします。



注意

ChemStation のデータ取込中にハードディスクのデフラグを行うと、データを失う場合があります。

➔ データ取込中には、ハードディスクのデフラグは行わないでください。

4 システムの残りのドライブに対して、上記の手順を繰り返します。

ウィルスのスキャン

Agilent ChemStation コンピュータが他のシステムとの通信でネットワーク接続されている場合 (LAN、モデム、BBS など) や、他のコンピュータのユーザーとファイルを共有している場合には、コンピュータウィルスのドライブスキャンを行うことをお勧めします。インターネットからプログラムをダウンロードしたり、電子メールやフレキシブルディスクで文書やプログラムの交換を行う場合には、ウィルスチェックのユーティリティが必須です。

ウィルススキャンには、数多くのユーティリティが存在します。またこうしたユーティリティは通常、新種のウィルスが発見されると定期的に更新されます。ウィルススキャンのユーティリティによるウィルススキャン時には、ハードディスクのパフォーマンスが低下することに注意してください。また、その他システム動作に影響する場合があります。

Agilent ChemStation は、Symantec の Norton Antivirus との実行によるテストを受けています。週に 1 回以上は、ChemStation コンピュータのすべてのディスクをウィルススキャンすることをお勧めします。新種のウィルスへの対応として Symantec が提供する最新のウィルス定義を取得するために、必ず LiveUpdate を実行してください。

注記

データ取込中には、ウィルススキャンを行わないでください。ハードディスクのパフォーマンス低下と取り込まれたデータにより、ハードディスクへの書き込み速度が足りずに、機器のログブックに停電やバッファオーバーランのメッセージが発生し、さらにデータ損失の可能性もあるためです。

注記

Norton AntiVirus のバージョンが Norton Antivirus 2005 より古い場合には、Windows セキュリティセンターからの警告として、Norton AntiVirus はインストールされているがその実行状況を判別することができないことが通知されます。ウィルス対策のセキュリティ警告を無効にして Norton AntiVirus をユーザー自身で監視する方法については、Windows を参照してください。また、Windows セキュリティセンターに互換性を追加するための更新ファイルを取得する方法については、Symantec のサポートにお問い合わせください。

残存している一時ファイルのクリーンアップ

TEMP 環境変数が指定するディレクトリ内に、一時ファイルが蓄積する場合があります。こうした一時ファイルが残存するのは大抵、最初に Windows を閉じずにコンピュータの電源を切った場合などの Windows の異常終了時です。Windows の一時ファイルの名前は ~XXXXXXX.TMP です。XXXXXXX とは、一時ファイルを作成したプログラムによって生成される文字や数字です。一時ファイルの領域を確保するには、実行されているアプリケーションをすべて閉じてから一時ファイルを削除してください。

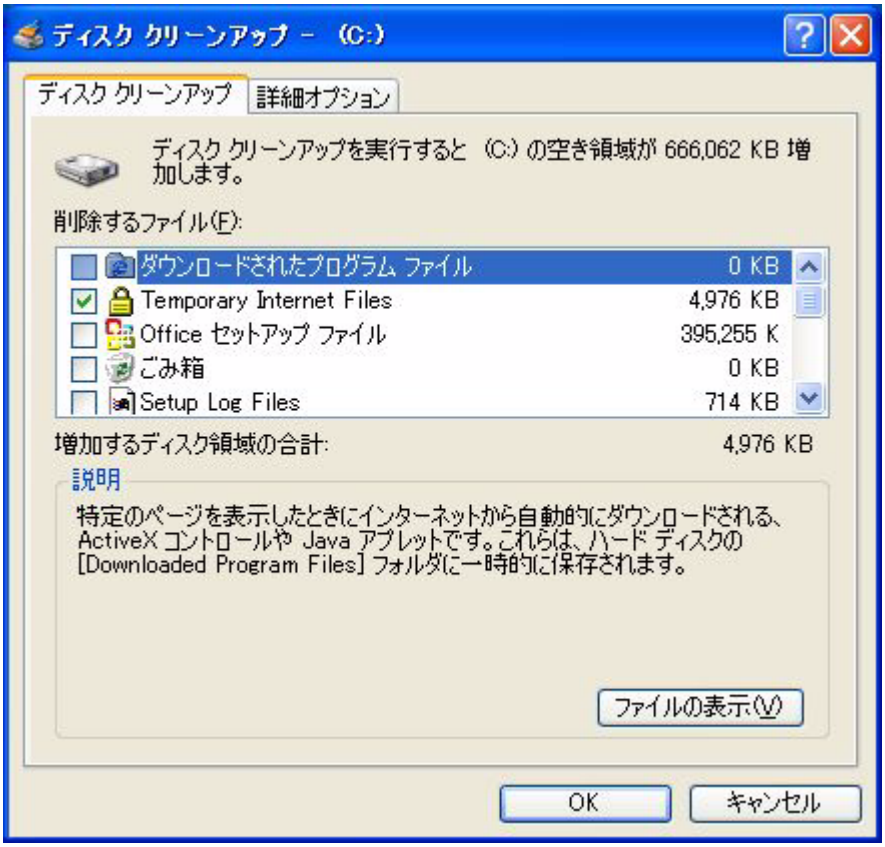
一時ファイルに使用されているディレクトリを知るには、コマンドプロンプトで
SET と入力します。ユーザーやシステムの環境変数のすべてに関する現在の設定が返されます。

1 **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[アクセサリ]** > **[システムツール]** > **[ディスク クリーンアップ]** を選択します。

2 クリーンアップするドライブを 選択します (C: など)。

3 **一時ファイル** や **Temporary Internet Files** を選択します。ユーザーの PC の用途や削除するファイルの種類について熟知していれば、他の種類のファイルを選択して削除してもかまいません。ディスククリーンアップユーティリティでは重要なファイルを削除してしまう可能性があるため、熟知してい

ない種類のファイルは削除しないでください。ChemStation コンピュータでは、**「古いファイルの圧縮」**オプションをオンにしないでください。**[OK]** をクリックします。



4 システムの残りのドライブに対して、上記の手順を繰り返します。

バックアップ

重要なデータを保護するには、適切なバックアップ方針を実行することが必須です。定期的にデータファイルをアーカイブ化することをお勧めします。オンライン使用する必要がなくなったデータファイルは、アーカイブ化してハードディスクから削除してください。これにより、コンピュータのハードディスクの空き領域が確保されます。ダイオードアレイ検出器や質量分析検出器から取り込まれたデータのサイズは、数メガバイトを簡単に超えてしまうことがあります。

Windows XP のバックアップ

Windows XP Professional には、標準テープデバイスを数多くサポートする互換性のあるバックアッププログラムが付属しています。バックアップユーティリティは、単一のファイルをバックアップしてオフライン媒体に記録する目的でも使用できます。どちらのバックアップユーティリティでも、データだけでなく Windows レジストリをバックアップすることもできます。

Windows XP のバックアップの自動化とスケジュール

Windows XP ではバッチファイルとスケジューラサービスを使用することによって、バックアップジョブを自動化したりスケジュール化することができます。Windows XP では、デフォルトでスケジューラを使用できます。

注意

ChemStation がデータを取り込んでいる間は、バックアップを行わないでください。

ハードディスクのパフォーマンス低下と取り込まれたデータにより、ハードディスクへの書き込み速度が足りずに、機器のログブックに停電やバッファオーバーランのメッセージが発生し、さらにデータ損失の可能性もあるためです。バックアップメディアに格納されているファイル構造に矛盾が生じるおそれがあります。

➔ バックアップを行う際は、データの取込がスケジュールされていない時に、Windows ベースのバックアップ ユーティリティを使用してください。

Travan テープドライブ

テープドライブは、現在最も多く使用されているバックアップデバイスです。IDE テープドライブは、最も低いハードウェアの初期コストと、使用に耐えうるパフォーマンスを兼ね備えています (最大 4 GB > hour)。Travan テープは、単一のワークステーション PC で Agilent ChemStation を実行しているラボのほとんどにおいて、最適なバックアップ手段です。テープあたりの最小の記憶容量は現在、非圧縮データで約 2.5 GB です。

使用ドライブをサポートする適切なバックアップユーティリティが必要です。

注記

MS-DOS ベースのテープバックアップユーティリティは、Windows から実行しないでください。テープ上のファイル情報が破壊されるおそれがあります。

デジタルオーディオテープ (DAT) ドライブ

デジタルオーディオテープ (DAT) ドライブは、一般的に記憶容量が 2 ～ 6 GB 以上であるため大容量のデータ処理に適していますが、PC に SCSI インタフェースが取り付けられている必要があります。

光磁気 (MO) ディスクドライブ

MO ディスクドライブは 1.3 GB 以上の大容量デバイスで、接続には PC に SCSI インタフェースが取り付けられている必要があります。MO ディスクドライブは、*ライトワンス*メディアやリライタブルディスクに読み書きができます。

特別なバックアップソフトウェアは必要ありません。OS またはデバイスに付属しているサポートドライバによって、フロッピーディスクと同様に追加の MO ディスクにアクセスできます。

注記

リライタブルディスクは NTFS フォーマット時には、システムの起動中に取り外したり交換するなどの「ホットスワップ」はできません。ディスクを交換するには、Windows をシャットダウンする必要があります。

レコーダブル CD-ROM

CD-R (CD レコーダブル) システムを使用すると、1 枚の CD-R ディスクに最大で 700 ～ 800 MB のデータを記録できます。CD リーダー > レコーダは多くの場合、PC の IDE インタフェースに接続されています。CD-R メディアは非常に寿命が長いため、アーカイブ化に最適です。CD-R ディスクは、CD-ROM ドライブと適切なソフトウェアがあれば他のコンピュータでも読み取り可能です。

レコーダブル DVD

レコーダブル DVD は、DVD+R や DVD-R などいくつかのフォーマットで利用できます。1 枚の DVD で最高 4.7 GB (一層) ～ 8.5 GB (二層) のデータを記録することができます。DVD リーダー > DVD レコーダは多くの場合、PC の IDE インタフェースに接続されています。DVD ± R ディスクは CD-ROM ディスクと同じくらいの寿命を持っています。ほかの DVD フォーマットとは対照的に、DVD ± R ディスクは書き換えができず、そのため長期アーカイブに特に適しています。DVD ± R ディスクは、DVD ドライブと適切なソフトウェアがあれば他のコンピュータでも読み取り可能です。

ネットワークサーバー

ネットワークサーバーは、ネットワークシステムの管理者がサーバーのディスクに保存されているデータの適切なバックアップ方針を実行していれば、データのバックアップ目的に使用することもできます。方法として、Agilent ChemStation 用にサーバーのディスク容量を割り当てます。このサーバーのバックアップ部分は、アクセス、コピー、評価など標準的なファイル操作を Windows 内でできるため*共有*と呼ばれます。

この方法での利点は、システムのアカウント (ログオン権限) を有するすべてのユーザーのバックアップをシステムの管理者が集中的に実行することです。

注記

3.5 インチのフロッピーディスクドライブの使用は、Agilent ChemStation でのバックアップ手段としては適切ではありません。

索引

C

CD-ROM
　レコーダブル　77

N

NTFS ボリューム　68

T

Travan テープ
　ドライブ　76

W

Windows Vista
　インストール　26
　コンフィグレーション　27
Windows XP
　インストール　8
　コンフィグレーション　9

ア

アンチウィルス　8, 26, 72

ウ

ウィルス
　スキャン　72

コ

コンフィグレーション設定
　Windows Vista　27
　Windows XP　9

サ

サーバー
　ネットワーク　78

セ

セキュリティ　8
セキュリティ設定
　Bootp サービス　62
　GC 7890A　55
　IO library　58
　LC/MSD trap　50
セキュリティ設定
　LC/MSD と CE/MSD システム　46

デ

ディスク クリーンアップ　73
デジタル オーディオ テープ ドライブ　76
デフラグ　70

ネ

ネットワーク
　サーバー　78

バ

バックアップ対象
　ドライブ　75
バックアップ
　方針　75

パ

パワーユーザー　66

フ

フォルダ オプション
　Windows Vista　29
　Windows XP　11

ユ

ユーザープロファイル　66

ラ

ライトワンスメディア　77

レ

レコーダブル CD-ROM　77

一

一時ファイル　73

光

光磁気ディスクドライブ　77

修

修復
　NTSF　68

電

電源オプション
　Windows XP　12

www.agilent.com

本書では

このマニュアルでは、アジレント提供でない PC バンドルシステムの設定方法を説明します。

このマニュアルの最初の 2 つの章では、アジレント提供でない PC バンドルシステムの設定に必要なすべてのパラメータの他、インターネットセキュリティなどの重要な設定についても説明します。

3 番目と 4 番目の章では、機器特有のセキュリティ設定と追加コンフィグレーションタスクそれぞれを説明します。

最後の章では、最適な状態にパフォーマンスを維持するためのコンピュータのメンテナンス方法を説明します。

© Agilent Technologies 2004, 2005-2009

Printed in Germany
07/09

G2170-96134

Agilent Technologies